

シ福井東端、高木東端、上野東端ノ線以西ノ九頭龍川特ニ森田中角附近ノ渡河點ヲ偵察セシム

一六四

- 四、騎兵隊ニハ現任務ヲ續行セシム
- 五、飛行隊ニハ監視飛行ヲ續行セシム
- 六、電話隊ヲ以テ左右兩縱隊前衛トノ間ニ電話回線ヲ準備セシム
- 七、大行李ハ先頭淺水附近ニ達セハ停止セシム
- 八、野戰病院二ヶ、步砲彈藥各半縱列ハ先進輜重トシテ江端ニ向ヒ前進セシム
- 其他ノ輜重ハ第一梯團ノ先頭鯖江北端ニ來ラハ停止セシム
- 九、軍司令官ニ電報シ兵站司令官ニ通報ス

說明

- 一、作戰ニ關スル準備行動ニ就テ
- 作戰行動特ニ其日交戦ヲ豫期スル場合ニ於ケル軍隊ノ行動ヲ律スルニハ大體三ヶノ階段アリ換言スレハ此種作戰ノ指導ニハ三種ノ準備行動ヲ要スルモノ

ナリ即チ左ノ如シ

- (1) 交戦地域廣義ノ豫期戰場ニ近接スル爲ノ準備
 - (2) 戰場廣義ノ戰闘地帯ニ現出(進入)スル爲ノ準備
 - (3) 戰闘線ヲ形成スル爲ノ準備
- (1) ハ豫期戰場ニ向テ行フ行動ニシテ發進前ノ情況判斷ニ基キ軍隊一般ノ部署ヲ決定スルモノニシテ當日ニ於ケル戰闘指導ノ素地ヲナスモノナリ第一問題ハ此種ニ屬ス
 - (2) ハ行軍ト戰闘トノ中間ニ於ケル一種ノ接敵行動ニシテ兵力重點ノ移動行軍縱長ノ短縮、兵力集結ノ如キモノ例ヘハ遭遇戦ニ於ケル分進、陣地攻撃ニ於ケル開進ノ如シ本問題ハ此種ニ屬スルモノニシテ兵力ノ移動ト分進トヲ要スルモノナリ
 - (3) ハ戰闘姿勢ノ確定ニシテ遭遇戦ニ於ケル展開、陣地攻撃ニ於ケル攻撃準備位置占領ノ如キモノナリ
- 二、作戰ヲ指導スルニハ地形ノ大體ヲ觀察セハ可ナリ、戰闘指導ニハ地形ノ詳密偵

察ヲ必要トスルコトハ敵狀ニ於ケルト同シ

三敵前ニ於ケル行動特ニ障礙線ノ通過等ハ極メテ慎重ニシテ萬全ノ策ニ出テサルヘカラス輕卒ハ決シテ攻撃精神ノ充溢ニハアラサルナリ
以上三ケノ要點ヲ教示セントスルハ第一第二問題ノ主眼トスル處ナリ

情 況

三月二十一日午前十一時三十分第一師團長ハ丸山附近ニ位置シ自己ノ目撃各部隊長ノ諸報告等ヲ綜合シ知り得タル處左ノ如シ

- (1) 舊前衛ハ其歩兵先頭ヲ以テ新保附近ニ達セリ其他ノ各部隊モ故障ナク行進シツ、アルコトヲ豫期ス
- (2) 我搜索騎兵ハ各一部ヲ以テ鳴鹿、松岡、中新田、東垣内附近ニ主力ヲ以テ高木附近ニアリテ九頭龍川對岸ニアル敵ノ歩

騎兵ト相對ス

- (3) 飛行機ノ投下報告ニヨレハ敵ハ三縱隊ニテ前進シ丸岡、福島、西長田ノ線迄前進セシモ午前十一時迄ハ歩騎兵ノ一部ノ外該線以南ニ進出セス而シテ敵兵力ノ分配ハ不明ナルモ中央縱隊ノ長徑最モ大ニシテ約八吉米ヲ算ス

同日正午迄ニ師團長ノ知り得タル所左ノ如シ

- (1) 福井北方及東北方一帶ノ伐採林、潤葉林及河岸附近ノ雜樹林ハ目下存在セス高地上ノ森林ハ矮樹ニシテ軍隊ノ行動ヲ妨ケス
- (2) 九頭龍川ハ概シテ圖上ト異ナルナク又約一米減水シアルコトハ確實ナリ然レトモ上野南方圖上一米八十ノ記入點附近ヨリ上流ハ到ル處容易ニ徒涉シ得ルモ同地ヨリ下流

ハ水深河底共徒涉稍困難ナルカ如シ但シ同地ヨリ下流ト雖モ之カ實行シ得サルニアラス
兩岸堤防ハ高サ約一米五十内外斜面緩ニシテ諸兵種ノ通過ヲ許ス

(3) 飛行機ノ投下報告ニヨレハ敵ハ午前十一時三十分頃丸岡福島西長田ノ線ヨリ一齊ニ前進ヲ開始シタルモノ、如ク同時宮領(福島東北約二吉)附近ヨリ進出シタル新縦隊ヲ見ル、各縦隊ノ行進方向ハ概シテ直南ニ向ヒアルカ如シ兵力ニ關シテハ尙未タ知ルヲ得ス

(4) 前衛ハ約半部閉縮シ、右縦隊ハ午前十一時四十五分原目ニ又左縦隊ハ午前十一時十分其先頭ヲ以テ大願寺ニ達セリ我騎兵前面ノ情況ハ變化ナキモノ、如シ

第三問題

正午ニ於ケル師團長ノ決心

講評

既ニ戰場進出ノ諸般ノ準備ヲ終リ敵ノ進出亦豫期ノ如クナルヲ以テ今ヤ師團ハ躊躇スルコトナク攻撃前進ニ移ラサルヘカラス

原案

師團ハ前面ノ敵ニ對シ即刻ヨリ攻撃前進ヲ開始セントス

第四問題

攻撃前進ノタメ師團命令ハ如何ナル方法手段ニヨリ如何ナル

順序ニ傳達スルヤ

但シ本師團ハ獨立作戰ヲナスヲ以テ特ニ參謀一名増加セラレアルモノトス

原案

一、B參謀ヲシテ電話ヲ以テ要旨ヲ左縱隊長ニ傳達シ且同縱隊長ヨリ騎兵聯隊長ニ遞傳スヘキコトヲ命シ後筆記命令ヲ該參謀ヲシテ左縱隊長及騎兵聯隊長ニ送達セシム而シテ此參謀ニハ戰鬪指導ニ關スル師團長ノ意圖ヲ告知シ爾後左縱隊方面ヘ派遣シ置クモノトス

二、C參謀ヲシテ電話ヲ以テ要旨ヲ右縱隊長ニ傳達シ後同參謀ヲシテ筆記命令ヲ送達セシム此參謀ニモ師團長戰鬪指導ノ意

圖ヲ告知シ該隊方面ニ派遣シ置クモノトス

三、師團長自ラ前衛司令官ノ許ニ至リ(參謀長及ヒ作戰主任ノ參謀ハ常ニ師團長ニ隨行ス)歩兵第一旅團長、砲兵隊長、工兵隊長及ヒ衛生隊長ニ師團命令ノ要旨ヲ口達シ後補足ノタメノ筆記命令ヲ副官ヲシテ送達セシム

四、D參謀ヲシテ電話ヲ以テ要旨ヲ本隊ノ引率者歩兵第二聯隊長ニ傳達セシム

本隊内ノ各隊長ハ歩兵第二聯隊長ヲシテ傳達セシム

五、A參謀作戰主任ヲシテ補足ノタメノ筆記命令ヲ起案セシメ參謀長ヲ經テ師團長之レヲ査閲シタル後同參謀ヲシテ師團司令部内ノ人員ヲ集メ口演筆記セシメ各一葉ヲ所要ノ部隊ニ配布ス

六、大行李、輜重及兵站へノ通報並ニ軍司令部へノ報告ハ最後ニ
參謀ヲシテナサシム

第五問題

B 參謀及ヒC 參謀ニ告知スヘキ師團長ノ意圖

原案

B 參謀へハ左縱隊ニ攻撃ヲ命シアルモ要スレハ九頭龍川ノ線
ヲ確實ニ占領シ師團ノ左側ヲ掩護セシムヘキ旨ノ意圖ヲ示ス
C 參謀へハ右縱隊ハ成ルヘク敵ノ左翼ヲ包圍スル如ク攻撃セ
シムヘキ旨ノ意圖ヲ示ス

第六問題

攻撃ノタメノ第一師團諸命令ノ起案

原案

(一) 左縱隊及騎兵聯隊ニ與フル要旨ノ命令

第一師團命令

三月廿一日午後零時十分
於丸山

- 一、敵ハ四縱隊トナリ午前十一時三十分頃其第一線ハ丸岡、福
島、西長田ノ線ヲ又第二線ヲシキモノハ宮領附近ヲ發シ共
ニ正南ニ向ヒ前進中ナリ
 - 二、師團ハ一部ヲ以テ高木、宮領ノ線以西ノ敵ヲ主力ヲ以テ該
線以東ノ敵ヲ攻撃セントス
- 之レカタメ師團主力ヲ以テ熊堂附近ヲ舊右縱隊ヲシテ兼
定島附近ヲ經テ攻撃前進セシム

三、左縦隊及ヒ騎兵第一聯隊ハ左翼隊トナリ高木、宮領ノ線以西ノ敵ニ對シ主力ヲ以テ福井、高木、福島道方面ヨリ攻撃前進スヘシ

四、予ハ丸山附近ニ在リ

傳達法 電話

(二) 右縦隊ニ與フル要旨ノ命令

第一師團命令 三月廿一日午後零時十分於丸山

一、前命令ニ同シ

二、前段前命令ニ同シ

之レカタメ左縦隊及ヒ騎兵聯隊ヲ以テ福井、高木、福島道方面ヨリ師團主力ヲ以テ熊堂ヲ經テ攻撃前進セシム
師團騎兵ノ主力ハ金元附近ニアリテ右側警戒中ナリ

三、右縦隊ハ右翼隊トナリ追分、北野下、熊堂、牛ヶ島東端ノ線(含マス)以東ノ地區ヨリ當面ノ敵ニ對シ攻撃前進スヘシ
特ニ一部ヲ以テ丸岡街道方面ヨリ敵ノ左翼ニ向ヒ攻撃前進ヲサシムヘシ
四、予ハ丸山附近ニ在リ

傳達法 電話

(三) 歩兵第一旅團長、砲兵隊長、工兵隊長、衛生隊長ニ與フル要旨ノ命令

第一師團命令 三月廿一日午後零時十五分於新保南端

一、前命令ニ同シ

二、前段前命令ニ同シ

之レカタメ右縦隊ヲ以テ追分、北野下、熊堂、牛ヶ島東端ノ線

以東ノ地區ヨリ左縱隊及ヒ騎兵聯隊ヲ以テ福井—高木—
福島道方面ヨリ各當面ノ敵ニ對シ攻撃前進セシム

三、步兵第一旅團(第二聯隊本部及ヒ第二、第三大隊、機關銃二小
隊、欠騎兵一分隊、工兵一小隊ハ中央隊トナリ追分、北野下、熊
堂、牛ヶ島東端ノ線(含ム)以西ノ地區ヨリ當面ノ敵ニ對シ攻
撃前進スヘシ

步兵第二聯隊第一大隊、同機關銃一小隊ハ後刻其隊ニ追及
セシム

四、野砲兵第一聯隊(第三大隊欠)ハ新保北側附近ニ陣地ヲ占領
シ主トシテ中央線ノ攻撃ヲ援助スヘシ

五、工兵第一大隊(二小隊半欠)ハ野砲兵聯隊ノ陣地占領ヲ援助
シ後追分附近ニ至リ豫備隊ニ入ルヘシ

六、衛生隊ハ各半部ヲ以テ下ノ中北端及ヒ福井北端(農學校附

近ニ開設ノ準備ヲナシアルヘシ

七、予ハ丸山附近ニ在リ

傳達法 口達

(四) 本隊引率者ニ與フル命令

第一師團 三月廿一日午後零時十分
於丸山

一、前命令ニ同シ 但シ第二項ノ後段ヲ除ク

三、步兵第二聯隊第一大隊同機關銃一小隊ハ追分ヲ經テ堂島
ニ向ヒ急行シ步兵第一旅團長ノ隷下ニ入ルヘシ

四、野砲兵聯隊(第三大隊欠)ハ志比口ヲ經テ新保ニ向ヒ急行ス
ヘシ

五、步兵第二大隊長ハ部下第三大隊及ヒ機關銃一小隊並ニ步

兵第三聯隊第三大隊、同機關銃一小隊ヲ指揮シ豫備隊トナ
リ追分附近ニ向ヒ前進スヘシ

工兵第一大隊(二小隊半欠)ハ後刻豫備隊ニ入ラシム

六、予ハ丸山附近ニ在リ

傳達法、電話

(五) 補足ノタメノ筆記命令

以上ノ各命令ヲ各別命令トナシ之レニ衛生隊、輜重及ヒ通信ニ
關スル事項ヲ加ヘ筆記シタルモノヲ分配ス
電話隊ニハ特別命令ヲ以テ通信設備ヲ命ス
飛行隊ニハ監視飛行ヲナサシムルコト如故
師團騎兵中隊ノ主力ニハ一般ノ要領ヲ筆記シテ通達シ右翼隊
ト協力シテ右側ノ警戒ニ任スヘキコトヲ命ス

大行李、輜重ニモ一般ノ要領ヲ筆記セルモノヲ分配ス

情 況

午後零時二十分右翼隊長ハ師團命令ノ要旨ヲ電話ニテ受領シ
終レリ

第七問題

師團命令ニ基ク右翼隊命令

講 評

一、右翼隊ノ攻撃前進スル方向ニ就テ各案ヲ大別スレハ左ノ二案トナル

1、間山、玄正島東側ヲ經テ磯部島ニ向フモノ

2、松岡西側末政ヲ經テ領家ニ向フモノ

第二案ハ一見有利ナル方向ナルカ如シト雖モ未タ敵ノ翼及敵トノ衝突地點明カナラサルニ當リ過早ニモ敵翼包圍ニ有利ナル配置ヲ探ラント企圖シタルモノニシテ師團ノ主攻撃カ熊堂方向ニ導カル、ニ當リ主攻撃方面ノ一部タル右翼隊カ中央隊ト離隔シテ末政方向ヨリ攻撃前進スルハ兵力分離ニ陥ル虞アリ故ニ本案ハ適當ナラス

第一案ハ中央隊ト近ク之ト連繫シテ攻撃前進セントスルモノニシテ師團主攻撃方面ノ關係上至當ナル前進方向ナリ而シテ此案ヲ探ルモノハ稍大ナル第二線部隊ヲ右翼後ニ前進セシムルヲ要ス之レ敵ト衝突スルニ當リ其北翼ヲ包圍スル企圖ヲ便ニセンカ爲メナリ

二、山砲兵第三大隊ノ陣地ヲ中ノ郷附近ニ選定セルモノ、リ第一線ニ近ク陣地ヲ占領セントスルノ考案ハ可ナルモ山砲兵ノ運動性ト彼我ノ形勢ヲ觀察スル時ハ該砲兵使用ノ時機ヲ失スルコトアルヲ顧慮セサルヘカラス故ニ山砲兵ハ原目東側高地ニ陣地ヲ選定シ以テ速ニ陣地ニ進入シテ射撃準備ヲ完了シ時機ヲ失セス右翼隊ノ攻撃ヲ援助セシムルヲ要ス

原 案

右翼隊命令

三月二十一日午後零時四十分
於原目東側高地

- 一、敵ハ丸岡、福島、西長田ノ線ヨリ南進中ニシテ其左縦隊ヲシキモノハ丸岡附近ヲ正南方ニ前進中ナリ
- 二、師團ハ一部ヲ以テ高木方面ヨリ主力ヲ以テ熊堂方面ヨリ敵ヲ攻撃セントス
- 三、舊右縦隊ハ右翼隊トナリ追分東端、北野下東端、熊堂東端、牛ヶ島東端ノ線以東ノ地區ヨリ敵ヲ攻撃セントス
師團騎兵中隊ノ主力ハ金元附近ニ位置シ右側ヲ警戒中ナリ
- 四、第二中隊ハ右第一線松岡、下合月、友末ヲ經テ攻撃前進
第一大隊第二中隊欠間山、玄正島東側ヲ經テ磯部東側ニ向ヒ

攻撃前進

第二大隊、機關銃隊(一小隊欠)、騎兵半小隊、工兵小隊ハ第二線第一大隊ノ右後へ梯隊、兼定島南端ニ向ヒ前進

五、山砲兵第三大隊(第九中隊欠)原目東側高地ニ主トシテ磯部島方向ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領シ右翼隊ノ攻撃ヲ援助スヘシ

六、予ハ暫時現在地ニ後第二線ト共ニ前進ス

傳達法 右縱隊前衛司令官及右縱隊長ト同行セル歩兵第二大隊副官、機關銃隊長、砲兵大隊長、工兵小隊長ヲ集メ口達ス

第二中隊ニハ筆記シテ送附ス

情況

午後一時前後ニ於テ各第一線諸隊ハ前進ヲ開始ス

第八問題

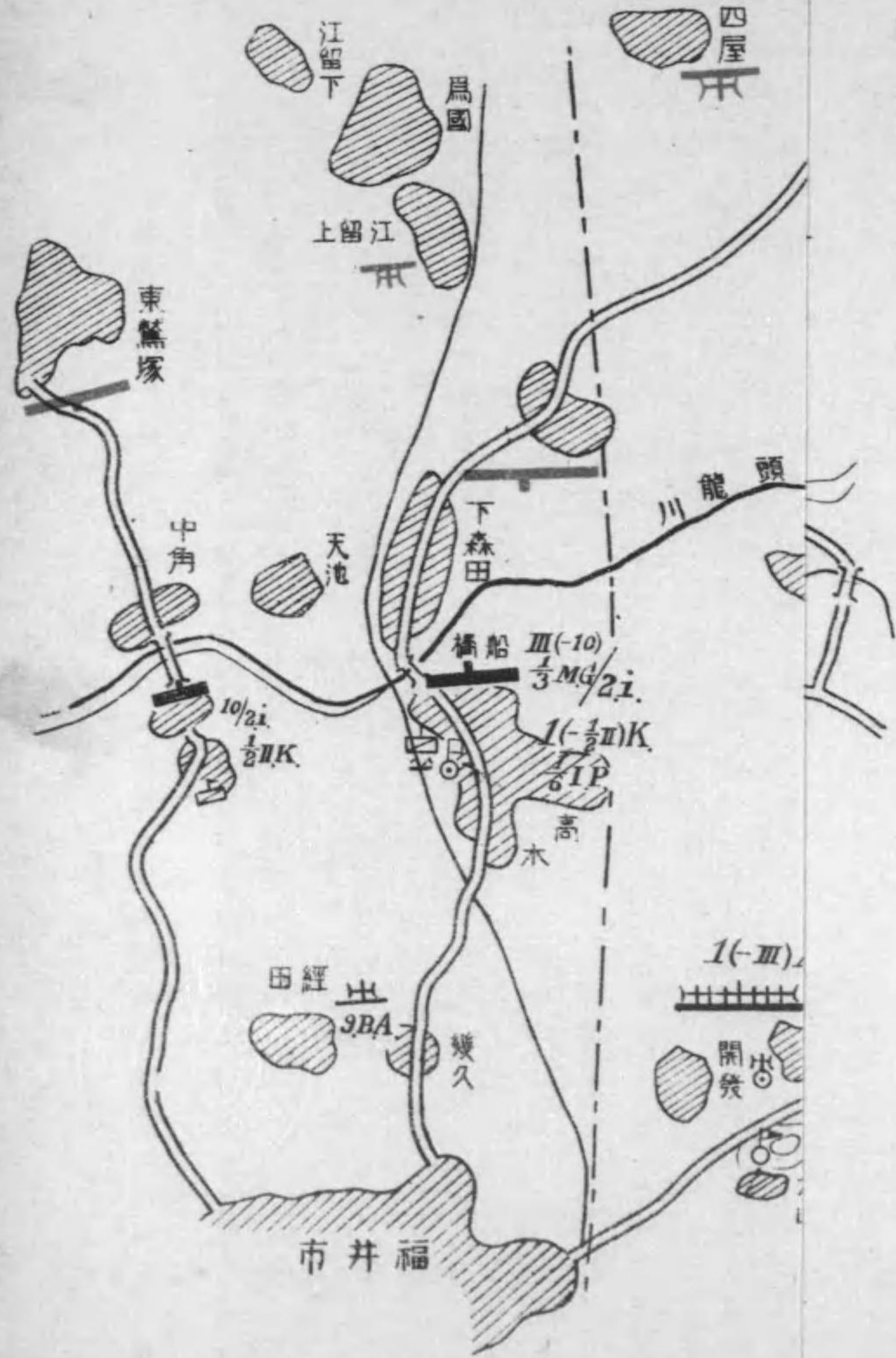
午後一時乃至一時半ニ於ケル彼我形勢要圖

講評

師團攻撃配備ハ既ニ研究セルヲ以テ第一線諸隊ノ配備ニ就テ所見ヲ述ヘン

一、中央線ノ攻撃部署ニ於テ當初ヨリ旅團長カ全ク豫備隊ヲ有セサルモノ或ハ一
 二中隊ノ豫備隊ヲ控置セルモノアルモ共ニ本狀況ニ於テ適當ナラス未タ敵ト
 離隔シアリ且ツ左翼隊トノ間ニハ大ナル餘地ヲ有スルヲ以テ爾後敵ト衝突ス
 ルニ當リ彼我ノ配置果シテ如何ニナルヘキヤ豫想スルヲ得ス將來敵ニ對シ有
 利ナル配置ニ於テ火線ヲ形成シ或ハ不利ナル配置ヲ適當ニ修正スル爲メニハ
 旅團長ハ此際稍大ナル豫備隊ヲ控置セサルヘカラス而シテ豫備隊ノ爾後ノ使
 用ヲ顧慮スル時ハ部隊ノ混淆ヲ避クル爲メ第二聯隊第一大隊ヲ之ニ充ツルヲ
 ス至當トス

第四圖 勢要圖



第四圖

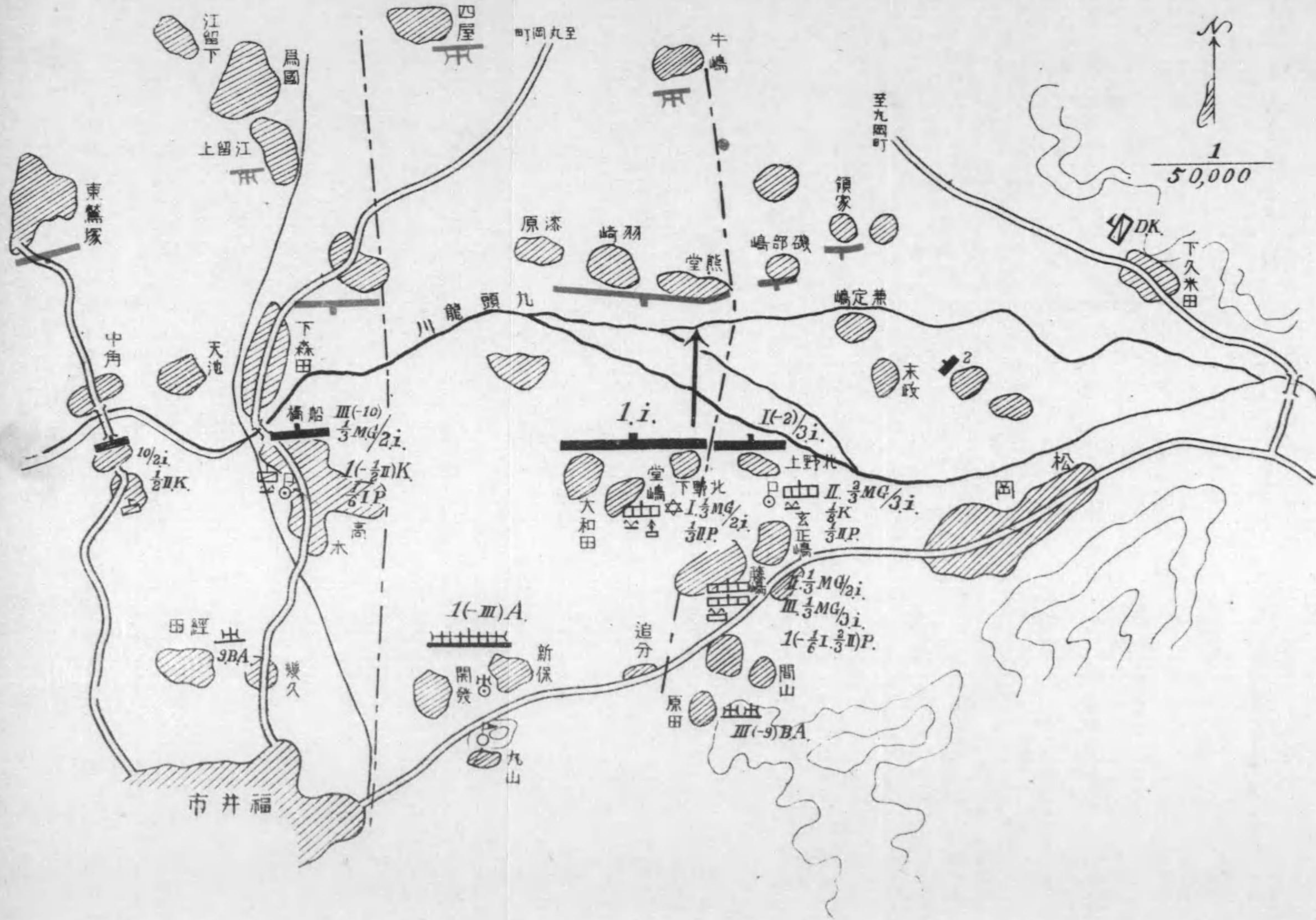
原案

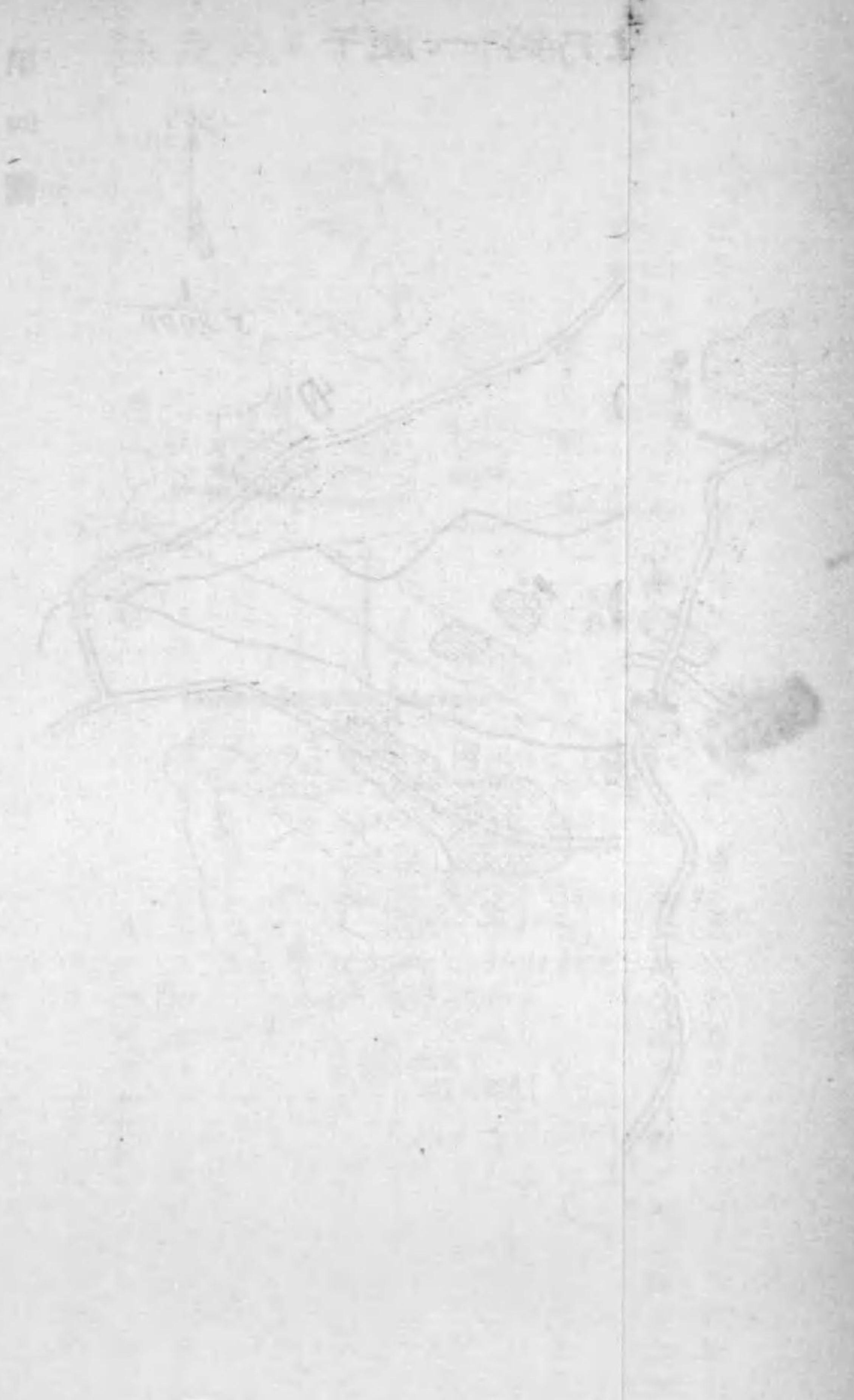
(別紙第四要圖ノ如シ)

二左縦隊ノ主力ハ途上縦隊ヲ以テ前進シ速ニ高木北端ヲ占領スヘク又西長田方
向ヨリ南進スル敵ニ對シ一部ヲ以テ速ニ東垣内北端ヲ占領スルヲ要ス之カ爲
メ歩兵一中隊ヲ該方向ニ派遣スルヲ適當トス

圖要勢形我波ルケ於ニ半時一至乃時一後午

第四圖





説明

以上ノ研究ハ主トシテ遭遇戰現時ノ趨勢ニ鑑ミ戰場進入ノ準備ヨリ戰鬪線形成ニ至ル間彼我形勢ノ推移ノ一般ヲ指示シタルモノニシテ始ハ處女ノ如ク終ハ脱兎ノ如クナル所即チ遭遇戰指導ノ妙味アル所ナリ爾後戰鬪ノ勝敗ハ各部隊力攻動作ノ良否指揮官後方部隊使用ノ適否ニ關ス

所謂統一展開ノ遭遇戰ナルモノニ就テ

世人往々統一展開ヲ以テ遭遇戰指導ノ本旨ナルカ如ク操典ノ原則ヲ曲解シアルモノアリ思フニ之レ全隊ヲ統一シテ戰鬪參與ニ努力スルヲ可トスルノ意ヲ直ニ採リテ以テ形體上ノ統一の姿勢ヲ可トスルト速斷シタル結果ナリ而シテ本見解ハ日露戰爭前後我國ニ於テ遭遇戰ニ於ケル先制ノ獲得ハ各部隊ノ電光石火の推進ニ依リ可能ナルカ如ク誤解アリシ當時ノ時弊ヲ矯正スルニハ稍効果アリシモ而モ決シテ之レ遭遇戰指導ノ本旨ニアラス

諸官試ニ思ヘ統一展開ノ遭遇戰ナルモノハ如何ナル情況ニ於テ發生スヘキヤ換

言スレハ某地點ニ於テ我先ツ展開ヲ完了セハ必ス敵ノ展開ニ先チテ有利ナル形勢ヲ以テ敵ヲ攻撃シ得ト明瞭ニ判斷シ得ル戰況ハ果シテ遭遇戰ニ存在スヘキヤ否ヤ昨年諸子ニ若シ如斯情況ニ應シ統一の展開ヲ以テ遭遇戰ヲ指導スル場合ニハ如何ナル手段ヲ用フヘキヤヲ例示シタリ然レトモ之ヲ見テ諸子ハ遭遇戰ハ統一展開ヲ原則トスト速斷スルハ不可ナリ故ニ特ニ運用ノ着眼ヨリシテ此言ヲナス所以ナリ

本狀況ニ於テ戰場進入ニハ慎重ナル準備ヲナシ之ヲ終ルヤ各隊ニ獨斷ノ餘地大ナル任務ヲ與ヘテ交戦セシメ以テ全局ノ勝利ヲ得ントスル所實ニ諸子ノ着意ヲ要スル所ナリ

尙諸子ハ遭遇戰ト雖モ決勝點ニ於ケル兵力ノ使用ヲ逐次ニスルノ不可ナル原則ヲ採リテ以テ直ニ展開ノ畫一ヲ要スト誤解スルコトナキヲ要ス

序ニ一言セント欲スルハ展開ナル意味ト其用途ナリ展開ナル語ハ廣義ニ解スレハ縱長ノ隊勢ヲ爾後ノ目的ヲ顧慮シ橫廣ノ隊勢ニ變スルヲ云ヒ狹義ニ解スレハ戰團任務ニ基キ軍隊ヲ區分スル方法手段ヲ云フナリ前者ノ意義ニ從ヘハ戰團ノ

目的ヲ以テスル縱長區分、分進、戰團任務ニ基ク排開即チ所謂展開ヲモ含有ス後者ノ意義ニ依レハ戰團任務ニ基キ火線構成ノ爲メ軍隊ヲ排開セシムル方法手段ヲ云フモノナリ何レニスルモ展開ナル語ハ縱長ノ隊勢ヲ交戦姿勢ニ移ス爲メ階梯トシテ採ル方法手段ナリ換言スレハ展開ナル語ハ手段ヲ意味スルモノニシテ決シテ戰團任務ヲ意味スルモノニアラス從テ軍隊ノ行動ヲ稱呼スル場合ハ可ナルモ命令詞等ニテ部下ニ戰團任務ヲ課スル場合此展開ナル語ハ不明瞭ニシテ多クハ適當ナラス意義ノ不明瞭不適切ナルニ拘ラス展開ナル語ノ便利ニ使用セラルハ所謂統一の遭遇戰ノ場合ト陣地攻撃ニ於ケル攻撃準備位置ヲ占ムル場合ナリトス遭遇戰ノ場合ニ就テ例示セハ次ノ如シ

一、師團ハ敵ヲ攻撃セントス

二、A 隊ハ何々―線ニ展開スヘシ

三、B 隊ハ何々―線ニ展開スヘシ

等之ナリ此命令ノ内容ヲ吟味スルニ甚タ不適當ナル點アリ先ツ命令ノ實質ニ於テ師團ノ一般目的ヲ示スノミニシテ次級單位ニハ任務ヲ與ヘスシテ單ニ火線構

成ノ爲メノ方法手段而モ任務ヲ與フレハ次級隊長ノ自ラ處斷シ得ヘキ方法手段ヲ命シアリ如斯ハ統帥上過失ト云ハサルヘカラス

次ニ此場合ニ於ケル展開ナル意義ヲ慣例トシテ解スレハ次ノ如シ

A 隊ハ師團ノ攻撃ヲ考慮シ何々ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ然レトモ予ハ何々ノ線ニ諸隊ヲ統一シテ動作セシムルヲ希望スルカ故ニ當面ノ情況特ニ已ムヲ得サルニアラサル限リ各部隊トノ連繫ヲ破リ各個戦闘ニ陥ラサルヲ要ス果シテ然ラハ頗ル適確ナラサルモノト云フヘシ
更ニ一言スルハ展開ナル意義ヲ遭遇戰ニ於ケル攻撃準備ナル意ニ誤用セラレツ、アルコト之ナリ例ヘハ

一、師團ハ敵ヲ攻撃スル爲メ何々―線ニ展開セントス

二、A 隊ハ何々―線ニ展開スヘシ

三、B 隊ハ何々―線ニ展開スヘシ

等之ナリ而シテ此場合ハ師團ハ何々―線ニ於テ前面ノ敵ヲ攻撃スル爲メ準備ヲナサントス、A 隊ハ何々線ニ於テ當面ノ敵ヲ攻撃シ得ル準備ヲナスヘシノ意ナリ

理論ヲ離レ慣例トシテ此種ノ意義ニ使用スルハ一ノ便法ナリ

情 況

一、三月二十二日午後五時ニ於ケル九頭龍川畔彼我ノ形勢左ノ如シ

(別紙要圖)

二、此時師團長ハ飛行機ノ報告ニ依リ左ノコトヲ知ル
本日午後三時諸兵連合ニシテ約三吉米ノ長徑ヲ有スル敵縱隊其先頭ヲ以テ小松ニ進入シ續テ南進中ナリ

第九問題

午後五時ニ於ケル師團長ノ決心

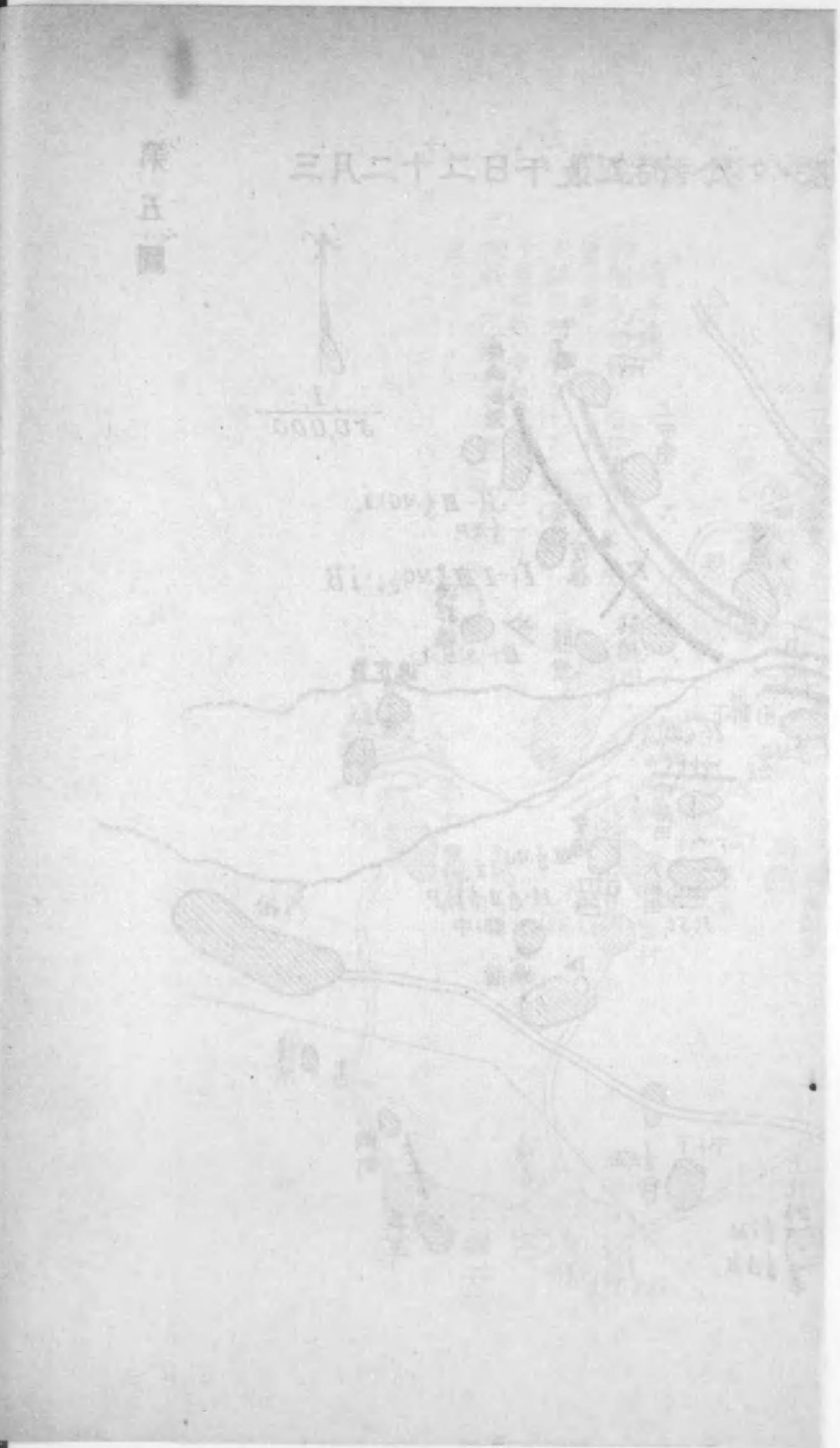
三月二十二日午後五時ニ於ケル彼我ノ形勢要圖

第五圖

備考
 一師團ハ九頭龍川右岸ニ於テ敵ノ左翼ヲ壓迫シ之ヲシテ守勢ニ立タシメ詭河左岸ニアリテハ敵優勢ニシテ目下我ハ守勢ヲ取リツ、アリニ彼我ノ攻撃共ニ活潑ヲ欠クニ至レリ



原案
 師團ハ攻撃ヲ續行セントス
 (別紙第五要圖ノ如シ)



說明

以上ノ研究ハ三月二十日ニ於テ第一師團長ノ策定セシ作戰計畫一部ノ實施ニ外ナラス思フニ當時師團長ノ策定セシ作戰方針ハ次ノ如クナラン

第一師團作戰方針

- 一、師團ハ富山平地ヲ領有ス可キ目的ヲ以テ三月二十一日運動ヲ開始シ該方面ノ敵ニ對シ攻勢作戰ヲ企畫ス(甲)
 - 二、情況攻勢作戰ヲ企畫シ得サル場合ニハ成ル可ク遠ク北方ニ於テ敵ヲ拒止シ以テ軍主力ノ左側背ヲ掩護ス(乙)
- 前述ノ方針ニ基キ諸施設ヲ計畫スルモノ即チ當時策定シタル第一師團ノ作戰計畫ナリトス
- 以上ノ方針ヲ學理的ニ區分スレハ左ノ如シ

〔甲〕戰略的攻勢

(1) 戰術的攻勢(九頭龍河畔ノ遭遇戰)

(2) 戰術的守勢(研究セス)

〔乙〕戰略的守勢

(1) 戰術的攻勢(軍ノ攻勢意ノ如クナリタル時)

(2) 戰術的守勢(軍カ守勢ニ立チシ時)

情 況

三月二十二日午後六時第一師團長ハ左ノ要旨ノ軍訓令ヲ受領ス

軍訓令ノ要旨

一、濱松及飯田方面ノ敵ハ相合シテ我カ五師團ニ相等スルモノニシテ三月二十日頃ヨリ運動ヲ開始シ本二十二日夕ニハ太田、名古屋ノ線附近ニ達スルノ距離ニアリ

金澤及富山附近ノ敵ハ相合シテ我カ約一師團半ニ相等スル兵力ヲ有スルカ如シ

二、新ニ軍ノ戰鬥序列ニ編入セラレタル第六、第七師團ハ姫路地方ヨリ京都附近ニ向ヒ輸送セラルル其集合時日ニ關シテハ未タ豫定スルヲ得ス

三、軍ハA支隊ヲ以テ龜山附近、第二師團ヲ以テ關ヶ原附近ヲ占領シ東方面ノ敵ノ前進ヲ遲滯セシメ主力ヲ愛知川(近江國)河畔ニ集結セントス
予ノ意圖ハ軍ノ集結狀態良好ナラハ一部ヲ以テ伊勢方面主力ヲ以テ美濃方面ヨリ攻勢作戰ヲ企畫スル事元ノ如シ敵若シ我カ集結完結ニ先チ近江平地ニ進出セハ愛知川河畔ニ於テ決戰ヲ求メントスルニ在リ

- 四 第一師團ハ一時決戦ヲ避クルヲ要ス
 - 五 予ハ京都ニ在リ
- 以上ノ訓令ニ基キ三月二十二日第一師團長ノ策定セシ作戰方針左ノ如シ

第一師團作戰方針

- 一 師團ハ軍ノ美濃平地進出ノ場合ヲ顧慮シ成ル可ク長ク越前平地ニ位置シ當面ノ敵ヲ拒止シ以テ軍主力ノ作戰ヲ容易ナラシム(丙)
- 次ノ場合ニ於テ攻勢ヲ企圖ス
 - (イ) 敵我カ陣地攻撃ヲナスニ當リ乘ス可キ機會アル時(丁)
 - (ロ) 敵兵美濃平地ニ轉進セントスル時(戊)
- 尙次ノ如キ場合アル事ヲ豫期ス
 - (ハ) 一部若クハ主力ヲ以テ北方面ノ敵ヲ拒止シ主力若クハ一部ヲ以テ軍主力

方面ニ轉進ス(己)

- 二 師團ハ軍ノ愛知川河畔ニ於テ決戦ヲナス場合ヲ顧慮シ左ノ如ク計畫シ以テ諸戦闘ヲ容易ナラシム
 - (ニ) 北方面ノ敵ヲ拒止スルト同時ニ東方面ノ敵ヲ成ル可ク多ク師團方面ニ牽制ス(庚)
 - (ホ) 兩方面ノ敵兵師團ニ對スル時ハ敦賀平地ニ於テ敵ヲ拒止ス(辛)
 - (ヘ) 更ニ優勢ナル敵ノ壓迫ヲ受クレハ一部ヲ以テ直接湖西ノ地區ニ行動セシメ主力ハ敵ヲ西方ニ誘致ス(未)
- 前述ノ作戰方針ニ基キ第一師團長ノ行ヒタル地形一般ノ觀察左ノ如シ

地形判斷

- 一 方針第一各項ノ爲ニハ越前平地内ニ於テ情況ニ應シ持久及攻勢何レヲモ採用シ得ル地ニ布陣シアルヲ要ス之カ爲ニハ武生附近ヲ適當トス此際勝山谷地ハ特ニ注意ヲ要ス

二 方針第二ノ爲ニハ左ノ如ク地形ヲ利用スルヲ要ス

(ニ)ノ場合ニハ一部ヲ以テ武生、敦賀中間山地ヲ利用シテ北方面ノ敵ニ對シ一部ヲ以テ柳ヶ瀬方面ヨリ東方面ノ敵ノ側面ヲ脅威シ主力ハ兩方面ニ對シ得ル如ク敦賀平地ニ位置ス

(ホ)ノ場合ニハ各一部ヲ以テ武生、敦賀間及木之本、敦賀間ノ山徑ニ依リ敵ノ前進ヲ遲滯セシメ主力ハ敦賀西端附近ニ布陣シ攻勢ノ機ヲ窺フ

(ヘ)ノ場合ニハ一部ヲ以テ琵琶湖西岸ニ沿フ地區ニ行動セシメ主力ハ小濱方面ニ退却シ該方面ニ敵ヲ誘致ス

第十問題

三月二十二日夕ニ於ケル第一師團長ノ決心理由及處置

總評

(A) 此問題ニ對スル諸官ノ考案ヲ大別スレハ左ノ如シ

(1) 攻撃ヲ續行スル案

本案ハ此迄奮闘努力シ今ヤ戰勝ヲ得ントシツ、アルニ際シ之ヲ見棄ツルハ所謂九仞ノ功ヲ一簣ニ缺クモノナリ而シテ敵増加隊ハ尙分離シアリ縱ヒ急行到着スルモ夜暗ニシテ直接ノ影響大ナラサル可ク若シ本夜中更ニ一段ノ努力ヲ加ヘ戰勝ヲ得ントスルニアレハ其壯烈ナル志氣ニ至リテハ予モ亦熱烈ノ同情ヲ表ス然リト雖モ本夜ニ於ケル夜襲ニ依リ一部ノ成功ヲ得タリトスルモ戰勝ヲ完フスルハ明拂曉以後ニアラサレハ不可能ナル可シ即チ此案ハ拂曉以後ニ於ケル新敵ノ本戰鬪ニ及ス影響ヲ考察セサルノ致ス所ナリ考案者或ハ曰ハン然ラハ午後五時ニ於テ何故師團長ハ攻撃續行ヲ斷念セサリシヤト此レ當時ハ任務ノ爲一段ノ奮勵ヲ要セシナリ今ヤ然ラス即チ軍司令官ハ決戰ヲ避ク可キヲ訓令ス此レ師團長カ本戰鬪ヲ中止スル所以ナリ

(2) 岩倉淺水ノ線附近ニ退却スル案

本案ハ師團ハ假令戰鬪ヲ離脱スルモ尙成ル可ク北方ニ占位スルノ戰略上有利ナルノ着眼ニ基クモノニシテ其主旨ハ不可ナシト雖モ師團現在ノ形勢ノ戰鬪

離脱ノ困難ト此カ爲多クノ時間ヲ要スル事及増加隊ヲ得タル敵ノ攻撃状態ノ如何ナルヘキカヲ考察セサルモノナリ又陣地其モノ、地形カ師團作戰目的ニ合スルヤ否ヤヲ熟慮セサリシ結果ナリ

(3) 武生附近ニ退却スル案

師團ハ成ル可ク北方ニ占位スルノ必要ト爾後ノ目的ヲ顧慮シ動作ノ自由ヲ得而カモ地形堅固ニシテ優勢ノ敵ニ對シ要スレハ比較的長時ノ持久戰ヲナシ得ル位置及地形ニ着眼シタルモノニシテ予モ亦同意スル所ナリ

(B) 作業ノ作爲ニ就テ

(1) 理由ノ記述雖然又ハ不充分ナルモノアリ今退却案ニ就テ述フレハ理由ハ次ノ如クナスヲ要ス

(イ) 戰鬪離脱ヲ要スル理由(本夜戰鬪續行スルモ戰勝ヲ完フスル所以ニアラサル點ニ力ヲ用フ)

(ロ) 退却目標ヲ武生ニ決定セシ理由(武生ハ戰略、戰術上、換言スレハ師團ノ作戰目的達成上適當ナル所以ニ力ヲ用フ)

- (ハ) 退却部署ノ骨子ヲ決定シタル理由(戰場離脱及退却行實施ノ爲數縱隊トナリテ退却シ得ル處置ヲ決定スル爲ノ地形判斷ニ力ヲ用フ)
- (2) 部署ノ記載價值アルモノ少ナシ宜シク命令ノ基礎、即チ下書トナシ得ル如クナル可シ

本問題ノ著眼

一、敵情判斷敵増加兵團ノ本戰ニ及ス影響及戰鬪續行ノ能否

戰例

日清戰爭

岫巖ニ向フ三原支隊

同

乃木混成旅團蓋平戰鬪後ニ於ケル宋慶軍

日露戰爭

黑溝臺ノ會戰

同

奉天會戰ニ於ケル日本第三軍

同

得利寺戰鬪ニ於ケル日本第四師團ノ一部

一八六六年

Pranteman 戰

二、本戦闘遂行ニ關スル司令官ノ意圖判斷

三、退却目標ノ決定

(1) 位置選定ニ關スル軍司令官ノ意圖判斷

(2) 敵追撃情態ノ考察

(3) 位置選定ニ關シ九頭龍川、武生南方隘路口間地形觀察

四、退却部署決定ニ關スル九頭龍川、武生南方隘路口間地形判斷

(1) 戦線離脱ニ及ス關係

(2) 拂曉前撤退ヲ要スル地域

(3) 戦場離脱ニ及ス關係

(4) 退却行掩護ニ及ス關係

(5) 退却縦隊編成ニ及ス關係

(6) 敵ノ迂回防支其他ニ及ス關係

主トシテ横方向ノ研究

主トシテ縦方向ノ研究

五、退却部署ノ決定

(1) 退却時機(四ノ(1)(2)ニヨル)

(2) 收容隊及收容陣地(四ノ(3)ニヨル)

(3) 後衛及後衛陣地(四ノ(4)ニヨル(統一スル線))

(4) 退却縦隊ノ編成(四ノ(5)(6)ニヨル)

(5) 退却ニ關シ後方ノ整理

六、附帶事項

(1) 退却ノ爲師團命令ノ構成及下達ノ要領

(2) 退却及其後ノ部署ニ關シ幕僚ノ使用

(3) 通報、報告並通信ニ關スル事項

原 案

決 心

師團ハ本二十二日夜暗ヲ利用シ武生附近ニ向ヒ退却セントス

理由

一 師團直前ノ敵ノ推定兵力ハ約一師團ニシテ約半師團ト推定セラルル敵増加兵團ハ本日午後三時其先頭ヲ以テ小松ニ進入シ續テ前進中ナリ此兩敵ハ距離ノ關係上本夜中ニハ相合シ得ヘキカ故ニ明拂曉ニ到ラハ敵ハ約一師團半即チ我カ二倍ノ兵力ヲ以テ攻勢ニ轉スルナラン果シテ然ラハ師團ハ明二十三日拂曉以後ニ到ラハ不利ナル戰鬪ヲ強制セラルルノ虞ナシトセス、假令師團本夜攻撃ヲ敢行シテ一部ノ成功ヲ得ルモ最早戰勝ヲ完フシ得ルノ望少ナシ、而シテ軍司令官ハ軍主力ノ攻撃動作ニ策應スル爲過早ニ不利ナル戰鬪ヲ避ク可キヲ以テ訓令セラレタリ故ニ師團ハ敵ノ攻撃運動開始ニ先チ本夜暗ヲ利用シ現戰場ヲ離脱シ爾後ノ作戰ヲ準備スルヲ要ス(退却ヲ要スル理由)

二 師團爾後ノ作戰ハ成ル可ク北方ニ占位シテ軍ノ左側ヲ掩護スルト共ニ當面ノ敵ニ對シテ過早ノ決戰ヲ避ケ且情況ノ如何ニ依リテハ何時ニテモ再ヒ攻勢ニ轉シ得ルヲ要ス

武生附近ハ地形堅固ニシテ持久戰ニ適シ且地形ノ利用如何ニヨリ尙攻勢運動ヲナスノ餘地ヲ保留シ得ヘク距離ノ關係上途中數次ノ抵抗ヲ豫期シ師團陣地占領ヲナスノ餘裕ヲ有ス可シ故ニ師團ハ本夜暗ヲ利用シテ戰場ヲ離脱シ武生附近ニ向ヒ退却スルヲ適當トス(退却目標選定ノ理由)

三 師團ハ目下形勢上、九頭龍川右岸部隊ヲ旋回シテ退却スル爲多時ヲ要ス可ク拂曉下吉野、新保、福萬ノ線ヲ通過シ終ルヲ以テ満足セザル可カラス、從テ此線附近ニ第一次ノ後衛ヲ備フルヲ要ス又増加隊ヲ得タル敵ハ猛烈ニ追撃ス可キカ故ニ師團ハ更ニ途中少ナクモ一回第二次ノ抵抗ヲ要ス可シ此線ハ地形上、岩倉、淺水ノ線附近ヲ適當トス(戰場離脱及退却掩護ノ爲採ラントスル部署ノ理由)

九頭龍川河畔ヨリ武生附近ニ退却スルニ方リ師團ノ利用シ得ヘキ道路四アリ即チ左ノ如シ

(甲) 松岡—上吉野—大畑—中毘沙門—西大味—赤阪—粟田部道

(乙) 追分—和田東—徳光—南井—横越—横市道

(丙) 北陸道

(丁) 福井—福村—三尾野—上石田—上氏家—上太田道
 故ニ師團退却運動ヲ容易ナラシムル必要上四道路ヲ利用シ退却スルヲ適當ト
 ス此際工兵ノ一部ヲ先遣シ通路一部ノ設備ヲナサシムルハ勿論ナリトス(退却
 部署ノ骨子ヲ定メタル理由)

處 置

- 一、飛行隊ハ翌日搜索飛行ニ必要ナルモノヲ殘置シ其他ハ即刻出發武生ニ退却セシム
- 二、工兵大隊ノ主力ハ即刻出發甲及乙道ノ補修並中毘沙門—上六條—小稻津附近徒涉點ノ設備ヲナサシム
- 三、師團電話隊ハ現在ノ通信ニ要スル人員器材ヲ殘置シ即刻出發途中所要ノ通信設備ヲナシタル後武生ニ退却セシム
- 四、野砲兵聯隊(第一、第二中隊、第三大隊、步兵第三聯隊ノ第十二中隊)ハ野砲兵聯隊長ノ指揮ヲ以テ午後九時現在地出發新條、比志口ヲ經テ北陸街道ヲ武生ニ向ヒ

- 退却セシム但シ第二大隊(第四中隊、欠)ハ淺水附近ニ停止セシメ後命ヲ待タシム
- 五、步兵第二聯隊長ノ指揮スル同聯隊第一大隊、同機關銃一小隊、步兵第三聯隊第三大隊(第十二中隊、欠)、同機關銃一小隊、騎兵聯隊、第一師團騎兵中隊(半中隊、欠)、野砲兵第一大隊、第三中隊、欠、工兵一小隊ヲ以テ後衛トナシ午前五時迄ニ一部ヲ以テ原田及大願寺ノ線附近主力ヲ以テ新條附近ヲ占領セシメ拂曉後ニ於ケル收容及退却ノ掩護ヲナサシム
- 六、步兵第三聯隊、第三大隊及機關銃一小隊、欠、騎兵半小隊、山砲兵第三大隊、第九中隊、欠、工兵一小隊ハ右縱隊トナリ午前零時三十分ヨリ其第一線ヲ撤シ兼定島、堅達、荒木別所、上東郷、生部、落井、戸吞、新宮ノ線以東ノ地區ヨリ粟田部ニ向ヒ退却セシム
- 七、旅團司令部、步兵第一聯隊、步兵第二聯隊、第一、第三大隊及機關銃二小隊、欠、騎兵半小隊ハ中央縱隊トナリ右縱隊ニ連繫シテ第一線ヲ撤シ前述ノ線及北陸道之ヲ含ム中間地區ヲ武生ニ向ヒ退却セシム但シ步兵第一聯隊、第三大隊、欠、騎兵半小隊ハ大士呂附近ニ停止シ後命ヲ待タシム

- 八、歩兵第二聯隊第三大隊、騎兵一分隊、山砲兵第九中隊ハ左縱隊トナリ午前三時其第一線ヲ撤シ北陸道(之ヲ含マス)以西ノ地區ヲ上太田ニ向ヒ退却セシム
- 九、第一線諸隊ハ各一小隊部隊ヲ現在地ニ殘置シ師團ノ退却ヲ秘匿セシム
- 十、師團長ハ午前四時迄追分附近、爾後拂曉迄丸山附近ニアリ
- 九頭龍川右岸部隊主力ノ下合月、末政、渡新田、下新田ノ線到着及各部隊ノ下合月、末政、渡新田、高木、東垣内ノ線ヨリノ發進ハ特ニ報告セシム
- 十一、軍司令官ニ報告、第二師團長ニ通報ス

第十一問題

退却ノ爲ノ第一師團命令

總評

一、命令ノ構成要領

(イ) 合同命令 單ニ隨意退却ナルト又命令起案ニ充分ナル時間ヲ有スルトノ理

由ヲ以テ合同命令ト爲シタル者アルモ不可ナリ即チ命令受領者カ實行殊ニ運動開始迄ニ時間ヲ有スルヤ否ヤヲ顧慮シテ合同命令ト爲スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ本命令ニ於テ特ニ必要ナリ而シテ合同命令ヲ以テ退却部隊ヲ指揮シ得ルハ一例セハ敵ニ近接シ在ラサル場合ニ於ケル隨意退却ノ如キ特別ノ情況ニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

(ロ) 各別命令

各別命令トシ言ハハ一部隊毎ニ全然各個ニ命令ヲ下スモノノミト解スルハ全ク誤解ナリ斯クノ如クスル時ハ各別命令却テ繁雜トナリ各別命令ノ効果ヲ失フニ至ルコトアリ故ニ便宜ノ數部隊ヲ合シテ同時ニ命令スルヲ便トス而シテ本情況ニ於テ各部隊ヲ如何ニ組合シテ命令ヲ下スヘキカハ研究ニ値スル事項ナリトス

(ハ) 各別命令ヲ下シタル後ニ於テ合同ノ補足命令

元來各別命令トテモ常ニ各部隊ノ協同動作ニ必要ナル事項ヲ具備セシムルモノナリト雖各別命令下達後ニ合同ノ補足命令ヲ下

シテ各部隊ノ協同動作ヲ明確ナラシムルヲ要スルコトアリ

二、二段命令

先ツ準備命令ヲ下シテ各部隊ニ運動ヲ開始シ得ル準備ニ在ラシメ後實行ニ關スル命令ヲ下シテ直ニ動作セシメントスルモノニシテ其主旨ニ於テ同意ナルモ實施ニ於テハ適時ニ命令ノ傳達困難ナルヲ以テ本情況ニハ合セサルヘシ

三、各別命令ノ類別

各別命令ヲ分類セハ次ノ如ク爲スヲ得ヘシ

- (イ) 緩急ノ程度ニ依ルモノ
- (ロ) 行動業務ノ連繫ニ依ルモノ
- (ハ) 本來指揮統禦ノ關係ヲ顧慮スルモノ
- (ニ) 特種ノ行動ニ依ルモノ
- (ホ) 下達ノ便否ニ依ルモノ

四、内容ニ就キテ

- (イ) 後衛(總後衛及各縱隊毎ノ後衛)

茲ニ言フ總後衛トハ全部隊指揮官ノ全部隊ノ爲設クル合同後衛ノ意ニシテ地形及情況共ニ退却ニ便ニ且ツ退却部署適當ニシテ各縱隊後衛ノ至當ニ動作スルニ於テハ之カ必要ナシ是我操典及ヒ陣中要務令ノ總後衛ヲ認メサル所以ナルヘシ以上ニ依リ各縱隊毎ニ後衛ヲ設クルハ自然ニシテ且當然ナルヘシ而シテ師團長ハ自ラ指揮スル縱隊ノ爲後衛ヲ規定シ其他ハ各縱隊毎ニ設クルモノトス

- (ロ) 作業者ニ夜間行動ナルコト及退却行動ナルコトノ顧慮ニ缺乏セルモノアルハ不可ナリ

- (ハ) 命令中目的ヲ示ササルモノアルハ不可ナリ

工兵隊ニ道路ノ改修ヲ命スルニ單ニ「何々道ヲ改修スヘシ」ト示スハ極メテ不親切ナルモノニシテ命令受領者ハ如何ナル程度ニ改修スヘキカ之ヲ知ルニ由ナシ宜シク野砲兵通過ノ目的又ハ何々通過ノ目的ヲ以テ何々道ヲ改修スヘキコトヲ命スヘキナリ

五、下達法

本命令ノ研究トシテハ命令ノ下達法ノ研究即チ下達スヘキ順序(何レノ部隊ヲ先ニスヘキカ)及傳達スヘキ方法等ニ充分ノ顧慮ヲ要ス蓋シ本情況ニ於テハ傳達迅速ナルヲ要シ内容如何ニ完備シアルモ下達當ヲ得サレハ遂ニ効力ナキニ至レハナリ

原 案

第一、大行李、輜重、衛生機關等ニ與フル命令

第一師團命令

三月二十二日午後六時三十分於道分

- 一、師團ハ本二十二日夜暗ヲ利用シ武生附近ニ向ヒ退却セントス
- 二、大行李、架橋縱列ヲ附スルコト故ノ如シハ即時現在地出發北陸道ヲ四郎丸、一本松間ニ退却スヘシ

三、輜重兩梯隊ハ即時現在地出發北陸道ヲ脇木、湯尾間ニ退却スヘシ

但シ先進輜重ノ内歩兵彈藥半縱列砲兵彈藥半縱列ハ即時現在地出發和田東、板垣、下六條、下河北、大土呂、淺水ヲ經テ爾後北陸道ヨリ輜重梯隊ニ追及スヘシ

四、衛生隊及第一、第二野戰病院ハ傷者ノ後送ヲ終リ左ノ如ク松森ニ向ヒ退却スヘシ

衛生隊第一半部(在兼定島附近) 午後十一時現在地出發
原目、中昆沙門、西大味、粟田部、庄田
道ヲ

第一野戰病院ノ半部(在下ノ中) 正子十二時現在地出發
上北野、和田東、下六條、江端ヲ經テ

爾後北陸道ヲ

衛生隊第二半部

第一野戰病院ノ半部

正子十二時出發北陸道ヲ

第二野戰病院

五、予ハ明拂曉迄現在地(追分)附近ニ爾後北陸道ヲ武生ニ至ル

傳達法 D 參謀ニ要旨ヲ示シ起案筆記セシメ傳騎ヲシテ送達セシム

第二、工兵第一大隊、飛行機隊、師團電話隊、野戰電信隊ニ與フル命令

第一師團命令

三月二十二日午後六時三十分於追分

一、諸兵連合ノ敵ハ本日午後三時其先頭ヲ以テ小松ニ進入シ續テ前進中ナリ

二、師團ハ本二十二日夜暗ヲ利用シ武生ニ向ヒ退却セントス

三、飛行機隊ハ明拂曉後主部ヲ以テ丸岡平地ノ敵情ヲ各一部ヲ以テ勝山平地及海岸道方面ノ搜索ヲ實施スヘキモノヲ除キ其他ハ即時現在地出發北陸道ヲ武生ニ向ヒ退却スヘシ
下河端附近ニハ著陸場ヲ準備シ置クヘシ
殘置飛行機ハ夜間飛行ヲナシ得ルノ準備ヲ爲シアルヘシ

四、工兵第一大隊(二小隊半欠)ハ即時現在地出發左ノ如ク行動シ後武生ニ向ヒ退却スヘシ
松岡—上吉野—大畑—中毘沙門—西大味—赤坂—粟田部道

歩兵及山砲兵通過ノ目的ヲ以テ偵察及補修

追分―和田東―徳水―南井―横越―横市道

野砲兵通過(諸兵種通過)ノ目的ヲ以テ偵察及補修

中毘沙門、上六條及小稻津附近足羽川ノ徒渉場

諸兵通過ノ目的ヲ以テ偵察及補修

五、師團電話隊ハ別紙回線圖(作業上省略)ニヨリ電話通信ヲ設

備シ後武生ニ向ヒ退却スヘシ

六、野戰電信隊ハ別紙回線圖ニ基ク通信設備及所要人員材料

ヲ殘置シ爾餘ハ即刻其他出發北陸道ヲ松森ニ向ヒ退却ス

ヘシ

七、予ハ午前四時迄追分附近ニ、拂曉迄丸山附近ニ在リ爾後北

陸道ヲ武生ニ至ル

傳達法 A 參謀ニ要旨ヲ示シテ起案セシメ筆記シタルモノヲ傳騎ヲ以テ

送達ス

第三、爾餘ノ諸隊ニ與フル命令

第一師團命令

三月二十二日午後七時二十分
於追分

一、諸兵種連合ノ敵ハ本日午後三時其先頭ヲ以テ小松ニ進入

シ續テ前進中ナリ

二、師團ハ本二十二日夜暗ヲ利用シ武生附近ニ向ヒ退却セン

トス

三、歩兵第二聯隊長ノ指揮スル左記部隊ハ次ノ如ク行動シ爾

後中央縱隊後衛トナリ明二十三日拂曉後ニ於ケル前線部

隊ノ收容ニ任シ且ツ主部ノ退却ヲ掩護スヘシ

歩兵第三聯隊第二大隊

(第十二中隊欠)

午前三時現在地ヲ發シ新保南端附

機關銃一小隊

近ニ位置シテ後命ヲ待ツ

步兵第二聯隊第一大隊

機關銃一小隊

工兵一小隊

騎兵第一聯隊

師團騎兵中隊

(一小隊欠)

下合月、渡新田、下新田ノ線通過後前記ノ地點ニ先行ス

第一線殘置部隊ニ連繫シ明拂曉迄現任務ヲ繼續シ後衛司令官ノ指揮下ニ入ル

但シ勝山方面及海岸道方面搜索部隊ハ予ノ直轄トス

野砲兵第一大隊
(第三中隊欠)

野砲兵聯隊長ノ區處ヲ以テ當初該聯隊ト共ニ行動シ新保東側附近ニ至リ後命ヲ待ツ

四、右翼隊ハ午前零時三十分ヨリ第一線ヲ撤シ主力ヲ以テ午

前三時三十分下合月、末政、渡新田ノ線ヲ、午前四時三十分下吉野、原目ノ線ヲ通過スル如ク行動シ爾後右縱隊トナリ兼定島、堅達、荒木別所、上東郷、生部、落井、戸谷、新宮ノ線(之ヲ含ム)以東ノ地區ヲ粟田部附近ニ向ヒ退却スヘシ

五、中央線ハ午前二時三十分ヨリ第一線ヲ撤シ右翼隊ニ連繫シ主力ヲ以テ午前三時三十分末政、渡新田、下新田ノ線ヲ、午前四時三十分下吉野、原目、新保、大願寺ノ線ヲ通過スル如ク行動シ爾後中央縱隊トナリ兼定島、堅達、荒木別所、上東郷、生部、落井、戸谷、新宮ノ線(之ヲ含マス)、寺前、町屋、農林學校、中學校、足羽公園ノ線及北陸道(之ヲ含ム)中間地區ヲ武生北側ニ向ヒ退却スヘシ

步兵第二聯隊本部及同聯隊第一大隊、機關銃一小隊、工兵一

- 小隊ハ下合月、末政、渡新田ノ線通過後其隸下ヲ脱ス
 又第一旅團司令部及歩兵第一聯隊第三大隊欠並騎兵半小
 隊ハ途中大土呂附近ニ位置シ後命ヲ待ツヘシ
 六、歩兵第三聯隊第三大隊、機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲兵第
 九中隊、工兵半小隊ハ午前三時三十分ヨリ第一線ヲ撤シ中
 央隊ニ連繫シ主力ヲ以テ午前四時三十分大願寺、福萬ノ線
 ナ通過スルカ如ク行動シ爾後左縱隊寺前、町屋、農林學校、中
 學校、足羽公園ノ線及北陸道之ヲ含マス以西ノ地區ヨリ上
 太田ニ向ヒ退却スヘシ
 七、右翼、中央、左翼隊ハ各一小部隊ヲ現第一線附近ニ殘置シ師
 團ノ退却ヲ秘匿セシムヘシ
 八、野砲兵第一聯隊第一大隊本部及第一、第二中隊、第三大隊欠

- 歩兵第三聯隊第十二中隊ハ午後九時現在地出發北陸道ヲ
 武生ニ向ヒ退却スヘシ
 但シ野砲兵第二大隊(第四中隊欠)ハ淺水附近ニ位置シ後命
 ヲ待タシムヘシ
 九、予ハ午前四時迄追分附近ニ、拂曉迄丸山附近ニ在リ後北陸
 道ヲ武生ニ至ル

傳達法 A 參謀ヲシテ起案セシメ筆記ノ上副官及傳令將校ヲシテ各隊長

ニ傳達セシム

以上ノ外兩翼隊ニ派遣シアリシ參謀ヲ召致シ中央隊ニハ別ニD
 參謀ヲシテ別紙訓令ヲ師團騎兵中隊、左右兩翼隊及中央隊騎兵第
 一聯隊ノ各隊長ニ各一葉ヲ傳達セシメ更ニ夜間飛行及後方準備
 ニ關シ所要ノ通報ヲナサシム、此等ノ參謀ハ下吉野、原目、新保、大願
 寺、福萬ノ線通過ノ時機迄派遣シ置クモノトス

第四師團騎兵中隊、左右兩翼隊、中央隊及騎兵第一聯隊ニ與フル
訓令

第一師團訓令 三月二十二日午後九時
於追分

三月二十二日夜ニ於ケル退却指導ニ關スル予ノ企圖ハ左ノ
如シ

一、戰場離脱ニ關シ九頭龍川右岸部隊ハ午前零時三十分頃最
外翼ヨリ逐次ニ行動ヲ開始シ午前三時三十分諸隊ハ概ネ
下合月、末政、渡新田、下新田、高木、東垣内ノ線ニ達シ後一齊ニ
該線ヲ撤シ午前四時三十分頃下吉野、原目、新保、大願寺、福萬
ノ線ヲ通過スルカ如ク行動ス爾後師團ハ三縱隊トナリ粟
田部、武生、上太田ノ線ニ向ヒ退却ス之カ爲メ第一後衛ノ線

ヲ下吉野、原目、新保、大願寺、福萬ノ線ト豫定ス而シテ敵ノ追
撃状態如何ニ依リ途中更ニ敵ノ前進ヲ遲滞セシムル必要
アル場合ヲ顧慮シ第二次後衛陣地ノ線ヲ岩倉、北山、鉾ヶ崎
二日市、花守、甕谷ノ線附近ト豫定シ一部隊ヲ以テ該線附近
ニ於テ之カ準備ヲ爲シアラシム
二、第一線殘置部隊ハ明拂曉迄現在ノ位置ニ在リテ敵ト觸接
シアルコトヲ努ムヘシ

情 況

二十三日拂曉師團參謀ハ陣地偵察ノ爲メ武生附近ニ先行ヲ命
セラル

第十二問題

第一師團防禦ノ目的ヲ以テ武生附近地形判斷

諸森林ハ軍隊ノ行動ヲ妨害セス

諸河川ハ徒渉自由ナリ

米田ハ畑地ト同様ナリ

講評

諸官ノ案ハ次ノ四種ニ分ツヲ得

第一案 新賀宮、村岡山、愛宕山ノ線ニテ持久防禦ヲナスモノ

第二案 同線ニテ攻勢防禦ヲナスモノ

第三案 新賀宮、村岡山、觀世音高地ノ線ニテ持久防禦ヲナスモノ

第四案 奥西谷南方高地、妙法寺西側高地、春日神社高地ノ線ニテ持久防禦ヲナ

スモノ

第一案ハ一見可ナルカ如キモ地形上敵ニ決戦ヲ強イラルヲ以テ持久ノ目的ヲ達スルヲ得ス、此線ヲ採用セハ第二案ノ如ク攻勢防禦ヲ爲ス方可ナリ、然レトモ敵ハ此際先ツ愛宕山西北方高地方面ヨリ徐々ニ愛宕山ノ奪取ニ努メ、然ル後全線攻撃前進シ來ラン故ニ目的達成ニハ充分ト謂ヒ難シ

第三案ハ緊要ナル愛宕山ヲ易々トシテ敵ニ與フルノ不利アリ、然モ敵ハ愛宕山東西ノ線ニ於テ充分ナル準備ヲ整ヘ歩砲火ノ優勢ヲ占メ、武生町西方地區ニ主攻撃シ來ルヲ以テ直チニ決戦ニ陥ラン

第四案ハ持久ノ爲ニハ最モ堅固ナリ、然レトモ本防禦ノ戦闘目的ハ單ニ持久ノミナラス時機ニ依リテハ攻勢ヲ採ラサルヘカラサルヲ以テ當初ヨリ此陣地ニ退嬰スルハ同意スル所ニ非ス

故ニ各案共未タ充分ナラス、畢竟諸官ノ著意ニ適當ナラサルモノアルニ基因ス、左ニ少シク説明スル所アラントス

本問題ノ著眼

一、師團防禦ノ作戰目的 持久ヲ要ス
 攻勢ト防勢トヲ併用スルヲ要ス

附

戰略任務ト戦闘方式ノ選定ト相應セスシテ失敗セシ戦例

一、一九〇四年五月一日

鴨綠江畔ノ戦闘ニ於ケル露ガスリツチ兵團

二、一九〇四年六月十五日

得利寺附近ノ戦闘ニ於ケル露シタケルベル

グ兵團

二、敵現出状態ニ鑑ミ各方面地區ノ價値
 作戰地域ヲ數地區ニ分割スルヲ要ス

イ、守備地區

ロ、警戒地區

ハ、監視地區

三、師團防禦ノ戦闘目的

持久ヲ可トス然レトモ好機アレハ攻勢ニ轉スルヲ可トス

附 大兵團ニ在テハ攻者ハ防者ノ陣地ノ近傍ヲ戦ハスシテ通過シ去ル事ハ少

キモノナリ

戦例

一八六六年

Königsgrätz

一八七〇年

Werth.

Gravelotte, St. Privat.

一八七七年

Prevna.

四、防禦線ノ決定

(イ) 敵主攻撃方面ノ考察 武生西方地區

(ロ) 線ノ數

(1) 第一線陣地

(a) 新賀宮、横市、武生北端、高森、上大蟲ノ線

(b) 大手南方高地、帆山高地、楠茶白山、廣瀬北方高地ノ線
(2) 第二線陣地

牧谷越、奥西谷南方高地、妙法寺西側高地、廣瀬南方高地ノ線

(ハ) 正面ノ方向及左右ノ限界

(1) 第一線陣地線

(甲) 主線

村岡、武生北端、高森ノ線

(乙) 一部ノ線

(a) 八王子山ヨリ新宮西側高地ニ亘ル線

(b) 上大蟲附近ノ高地

(2) 第二線陣地線

(甲) 主線

奥西谷南方高地、河新保、行松、妙法寺西側高地ノ線

(乙) 一部ノ線

(a) 牧谷越附近

(b) 廣瀬南方高地附近

五、主陣地(本陣地)構成要領及守備計畫

六、前進陣地

(イ) 栗田部附近

(ロ) 愛宕山附近

七、警戒線

(イ) 前方

八幡山、雨降神社、鯖江、三床山ニ亘ル線

(ロ) 翼側

(1) 持越、西高尾山、八幡山ノ線

(2) 乙床山、蚊寺谷村、下河原村ノ線

(ハ) 側面

(1) 大野谷地方面

原案

判決

師團ハ火線ニ依ル攻勢ノ目的ヲ以テ新賀宮高地、村岡山、武生北側、觀世音高地ノ線、專守ノ目的ヲ以テ奥西谷南方高地、妙法寺西側高地、春日神社ノ高地線ニ二線ノ本陣地ヲ構築シ粟田部高地、愛宕山高地ニ前進陣地ヲ占領シ當初一部ヲ以テ守備セシメ主力ヲ武生南方附近ニ集結シ以テ機動的攻勢ノ機ヲ窺フヲ要ス

部署

第一線

右地區 日野川以東

步兵二大隊、砲兵一中隊 當初粟田部高地ニ步兵二中隊、砲兵半中隊ヲ出

ス

中央地區 日野川—丹生郷

步兵四大隊、砲兵五中隊

左地區 横根—大蟲ノ高地

步兵一大隊、砲兵一中隊

前進陣地

愛宕山—二一八、四高地—其西南方高地 步兵一大隊、砲兵一中隊

家久 步兵一中隊

家久—粟田部 騎兵ノ主力

第二線

右地區 松森以東—日野山

步兵一大隊、砲兵一中隊

中央地區 松森—神山村ノ圖上、神ノ字迄

歩兵三大隊、砲兵三中隊

左地區 「神」ノ字ヨリ—二〇七高地

歩兵一大隊、砲兵一中隊

左側支隊 勝連花—金カツキ山

歩兵一大隊、砲兵一中隊

情 況

三月二十四日第一師團ノ後衛(☆) ^{1(-III)j} 1K ^{1/2 DK} II(-4)A ^{1/2 P} ハ其主力ヲ以テ文
 珠山北側附近其騎兵ヲ以テ大野—小和清水福井東南約二里半
 —文珠山ノ線及文珠山—大森(福井西南約二里)—蒲生(大森西方
 約二里海岸道上)ノ線ニ位置シ敵情搜索中ナリ
 飛行隊ハ今朝ヨリ各方面ノ敵情ヲ搜索シツツアリ

師團主力ハ武生附近陣地ノ構成中ニシテ師團司令部ハ武生南
 端附近ニ在リ

第一師團主任參謀ノ正午迄ニ逐次得タル所ノ情報左ノ如シ

第一情報

軍司令部ト第一師團司令部トノ直通電氣通信ハ本朝來故障
 ノ爲メ斷絶シ各當事者ハ其原因ヲ探究シ之ヲ補修セムト努
 力シツツアリ隨ツテ本朝來第二師團司令部ヲ經由シテ辛ウ
 シテ通信ヲ持續シツツアリ

第二情報(午前九時受領、同八時關ヶ原發第二師團電話通報ノ要

旨

一、師團ハ垂井附近ニ陣地ヲ占領シツツアリ
 師團當面ノ敵ハ目下揖斐川ノ線ニ在リテ攻撃ヲ準備中ニ

シテ其兵力第一線ニ約三師團ヲ有スルカ如シ

二、本支隊ノ通報ニヨレハ約一師團ノ敵ハ昨夕四日市附近ニ進入セリト

三、揖斐川上流監視ノ爲メ當師團ヨリ西津波(大垣西北方約六里)附近ニ派遣シアリシ下士斥候ノ報告ニヨレハ昨二十三日夜遅ク三輪(大垣北方約三里)附近ニ諸兵連合ノ大部隊進入シ今朝ヨリ揖斐川河谷ヲ北進中ナリト

四、師團ハ、、、、(以下電話不通)

本通報ニハ通信所長ヨリ通報未完ナルモ取敢ス傳達ス事故ヲ探究シ修理ノ上問合セ更ニ傳達スル旨附記シアリ

第三情報(午前九時三十分受領、同九時發銚ヶ崎發後衛司令官電話報告ノ要旨)

一、後衛前面ノ敵ハ主力ヲ以テ福井市東側附近ニ位置シ各其一部ヲ大畑(福井東方約一里)―八幡山(福井西南約一里)ノ線附近ニ出シ我陣地ヲ偵察中ナルカ如ク今猶前進ノ模様ナシ

二、福井及其附近ニ在ル敵ハ頗ル多數ニシテ當方面ニ於ケル敵ノ全力ナラム然シテ推測スルニ敵ハ増加隊ヲ併セタルナラム。

三、後衛ハ尙現在地ニ在リテ敵情ヲ搜索セムトス

第四情報(午前十時受領、午前八時清水發騎兵將校斥候報告ノ要旨)

一、福井附近ニハ今猶敵ノ大兵團アリ

二、福井附近ノ敵ハ逐次北方ニ退却スルモノノ如ク斷續シテ

人馬車輛ノ北陸道ヲ北進スルヲ見ルハ想フニ我飛行機ヲ
遮蔽シツツアルモノナラム

三、斥候ハ尙敵情ヲ確メムトス

第五情報(午前十時三十分受領午前四時鮎川(福井西方ニ當ル海
岸道上)發騎兵將校斥候ノ報告ノ要旨)

一、昨二十三日夜諸兵連合ノ大縱隊石橋鮎川北方約二里半(附
近ニ到著セル影跡アリ
土人ヲ詰問シテ聞キ得タル所ニヨレハ小銃ヲ有スルモノ
一萬砲ハ約二十門ヲ有スト)

二、斥候ハ明二十四日早朝ヨリ該敵情ヲ確メムトス

敵ノ壓迫ヲ受クルニ至レハ逐次海岸道ヲ退却セムトス

第六情報(午前十時受領午前三時大野發騎兵將校斥候ノ報告ノ

要旨)

一、勝山附近ニハ諸兵連合ノ敵兵アルモノノ如ク土人ノ密告

ニヨレハ該敵ハ二十三日正午頃ヨリ逐次九頭龍川ニ沿ヒ
前進シ來レルモノニシテ兵數ハ之ヲ算スルヲ得サルモ多
數ノ砲ヲ有ス而シテ敵兵中ニハ岐阜方面ニ前進スルノ噂
盛ナリト

二、斥候ハ二十四日早朝ヨリ該敵情ヲ確メントス

第七情報(午前十一時三十分受領飛行機ノ投下報告ノ要旨)

一、高山方面ニハ敵兵ヲ見ス

二、勝山及大野附近ニハ敵兵ヲ見ス

三、北陸道ニ沿フ地區ニハ福井附近ニ多數ノ集團アルコト昨
夕ト大差ナキモ福井―中川丸岡北方約一里間ニハ所々敵

集團アルカ如キモ敵飛行機ニ妨ケラレテ充分ニ視察スル
ヲ得ス

四、坂井及浪坂方面ニハ敵ヲ見ス

第八情報

師團退却ノ際福井附近ニ殘置シタル間諜及變裝將校ハ二十
四日正午ニ到ルモ歸來セス

第九情報

軍司令部ヨリ何等カ通信セントスル徵候電話機ニ現ハルル
モ全ク聽取スルヲ得ス

第十三問題

二十四日正午ニ於ケル第一師團參謀ノ情況判斷

總 評

一、諸官ノ判決ヲ種別スレハ左ノ如シ

(イ) 攻撃案ニシテ更ニ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

(1) 直ニ攻撃前進セムトスルモノ

(2) 攻撃ノ爲メ威力搜索ヲ行フ

(3) 先ツ兵力集結ヲ行フ

(ロ) 現情維持案

(ハ) 轉進セムトスル案

(1) 一部ヲ轉進セシメテ爾後ノ爲メ立脚地ノ占領

(2) 主力ヲ以テスル轉進

二、前項ノ判決ヲ得タル敵情判斷ハ左ノ如シ

(イ) 三ヶ所ニ敵兵力分離ス

(1) 敵ノ追撃緩慢ハ其新企圖ヲ疑ハシム

- (2) 三ヶ所ニ於ケル敵情ハ信スヘシ
 - (3) 敵ハ轉進セサルヘシ
 - (ロ) 二ヶ所ニ敵兵力分離ス
 - (1) 敵ノ追撃緩慢ハ其新企圖ヲ疑ハシム
 - (2) 大野ノ敵ハ信スヘク且轉進ノ爲メナラム
 - (3) 海岸方面ノ敵ハ信スヘカラス
 - (ハ) 敵主力ハ轉進スヘシ
 - (1) 大野方向ノ敵ハ信スヘク且轉進ノ爲ナラム
 - (2) 退却部隊ハ自衛ノ爲メ加越國境ノ守備ナラム
 - (ニ) 敵ハ依然福井附近ニ存在ス
 - (1) 後衛司令官ノ報告信スヘシ
 - (2) 其他ハ信シ難シ
- 三、茲ニ先ツ假定ヲ設ケテ研究ヲ試ミムトス
- (甲)

- (イ) 我師團ハ成シ得レハ敵ヲ擊攘シ已ムヲ得サレハ持久戰ヲナスノ企圖ヲ有ス
- (ロ) 敵ハ主力ヲ以テ福井諸兵連合ノ有力ナル部隊ヲ以テ約一日行程ヲ隔ツル山地ノ大野附近及約半日行程ヲ隔ツル石橋附近ニ分離シ在リ
- (ハ) 師團ハ目下後衛ヲ以テ敵主力ノ前方約一里主力ヲ以テ約二里ノ地點ニ位置ス
- (ニ) 結論如何(攻撃前進)
- (乙)
- (イ) 師團ノ目的前述ノ如シ
- (ロ) 敵ハ主力ヲ以テ勝山ヲ經テ美濃方面ニ轉進中ニシテ其一部ハ福井附近ニ在リテ我後衛ト相對ス而テ敵ハ轉進ノ爲メ其後方連絡線ハ勝山―白峰―金澤道方面ニ變換スルヲ要シ其ノ轉進路ハ人跡稀ナル山地約二十里ナリ
- (ハ) 師團ハ前述ノ如ク近ク敵ノ一部ト相對ス
- (ニ) 結論如何(攻撃前進)
- (丙)

(イ) 師團ノ目的前述ノ如シ

(ロ) 敵ハ主力若クハ全力ヲ以テ福井附近ニ存在スヘク他方面ノ報告ハ未タ信スルニ足ラス

(ハ) 結論如何(謂ハク現状維持)

(丁)

美濃方面ノ敵情ハ主トシテ第一師團ノ後方連絡線ノ變換ニ關係シ又師團ニ餘力ヲ有セハ第二師團ト協力スルハ軍將來ノ爲ニ有利ナルヲ示ス

四、右ノ如ク假定ヲ設ケ研究セハ本問題ノ著眼ハ各種情報ヲ審査シテ其ノ實否取捨ヲ決定スルニ在ルヤ明ナラム左ニ逐次情況ヲ考察セムトス

第一情報

電氣通信ノ故障ハ戰時ノ常態ニシテ已ムヲ得ス之カ爲メニ副通信法ヲ用フルト共ニ萬難ヲ排シテ故障ヲ修理セシムヘキモノトス

第二情報

一下士斥候ノ報告ナルト地形ノ關係上稍疑ハシキ點ナキニ非サルモ第二師團

ノ前面ノ敵兵力ノ多數ナル爲メ決シテ有リ得ヘカラサル事ニ非ス換言スレハ疑ハシキモ大ナル顧慮ヲ要スルモノナリ
第二師團爾後ノ企圖ハ想フニ一部隊ヲ山徑ニ出シテ警戒セムトスルノ意ニ非サルヤ
之レカ爲メニハ

(1) 第二師團ニ特ニ連絡將校ヲ派遣ス

(2) 兵站監ニ通報シテ諸山徑ノ警備ヲナサシムルト同時ニ兵站線ハ湖西ニ變換セシム(直ニ變換スルヤ否ヤハ軍司令長官ノ指示ヲ仰カサルヘカラス)

第三情報

後衛司令官ノ報告ハ信スヘキモノナラム唯敵ハ増加隊ヲ得タルニ拘ラス追撃ノ緩慢ナルハ不審ナリト雖モ我師團ノ隨意退却ナルト後衛陣地ハ其地形上本陣地ト誤認セシメシカ將又敵軍内部ノ事情(例セハ後方機關ノ關係等)ニヨルニ非サルカ果シテ然ラハ敵ノ追撃情態ノ緩モ亦戰時有リ得ヘキ事ナリ然レトモ敵兵特別ナル新企圖ヲ計畫シツツアルヤ疑ハサルヲ得ス之カ爲メニハ一意前面

ノ敵情ヲ搜索スルコト切要ナリ

第四情報

清水尻發將校斥候ノ報告ハ甚タ疑ハシキモノナリ想フニ斥候ハ敵軍ノ輻重傷者ノ移動ヲ誤認セシニ非サルカ

第五情報

鮎川發將校斥候ノ報告ハ虛報ニ非サレハ敵ノ一小部隊ノ現出セシモノナラム是レ地形上該方面ニ大兵團ヲ運用シ得サルト土人ヲ詰問シ聽取セルトハ益其威ヲ深カラシム

第六情報

大野發將校斥候ノ報告ハ信ヲ措クニ足ラス想フニ敵軍特ニ土人ヲシテ密告セシメシカ或ハ特ニ一部ヲ出シテ揚言セシモノナラム是レ敵ハ昨日正午勝山ニ到達シタル點ト又目下甚タ兵力ノ過剩アル友軍美濃方面ニ險惡ナル山地ヲ通過シテ轉進スル點トハ共ニ戰理ニ合セサレハナリ然レトモ此方面ハ軍ノ攻勢作戰ヲ企圖スル場合ニハ偉大ナル關係ヲ生スヘキカ故ニ特ニ注意ヲ以テ嚴ニ

監視セサルヘカラス

第七情報

飛行隊ノ諸報告中(1)ハ首肯ス(2)或ハ然ラム(3)然リト信セム但シ福井—中川間ノ敵集團ハ恐ラクハ戰列部隊ニ非サルヘシト推斷ス若シ戰列部隊トセハ増加隊ノ急進セルモノニ非サルヤ

第八情報

敵ノ爲メ捕獲又ハ慘殺セラレタルニ非サルヤ眞ニ憂慮ニ耐ヘサルモ君國ノ爲メ已ムヲ得サルコトニシテ切ニ此ノ志士ノ爲ニ武運ノ長久ヲ祈ルノミ

第九情報

軍トノ連絡ノ斷絶ハ甚タ懸念ニ堪サル所ナリ之カ爲メ一參謀ヲ京都ニ急行(飛行機又ハ自働車ニ依リ)連絡セシム

以上ノ審査ニシテ正確ナリトセムカ次ノ如キ結論(原案)ヲ得ヘシ

原案

判 決

師團ハ現行動ヲ持續スルヲ要ス
但萬一ノ場合ヲ顧慮シ後方連絡線ヲ敦賀及湖西地區ニ變ス
ルヲ要ス

理 由

諸情報ヲ綜合スルニ師團前面ノ敵ハ金澤方面ヨリ南下セル全兵力ニシテ目下主
力ヲ福井附近ニ集結シ我後衛陣地ニ對シ偵察ヲナシツツアルカ如シ
第二師團ノ通報ニシテ信ナラハ師團背後連絡線ニ危険ヲ及スヘク揖斐川河谷ヲ
北進セル敵兵力如何ニヨリテハ師團戰列部隊モ亦背後ニ危険ヲ感スルコトナシ
トセス之レカ爲メ速ニ該方面ノ敵情ヲ確ムルト同時ニ萬一ノ場合ヲ顧慮シ後方
連絡線ヲ敦賀及湖西地區ニ變換スルヲ要ス

處 置

- 一、參謀一名ヲ即刻飛行隊又ハ其隊用自動車ニヨリテ軍司令部ニ急行連絡セシム
- 二、第二師團ニ連絡將校ヲ飛行隊用自動車ニ依リ派遣シ該方面ノ情況ヲ確メシム
- 三、兵站監ニ揖斐川河谷ノ敵ニ對シ警備セシムルト同時ニ兵站線ヲ敦賀及湖西地
區ニ變換セシム

注意 電氣通信設備ノ復舊各方面ノ敵情搜索ノ督勵其他從來ノ業務ヲ持
續スルコト勿論ナリ

說 明

以上ノ研究ハ三月二十二日夕第一師團長ノ策定セシ作戰方針ノ一部ニ就テ研究
セルモノナリ當時第一師團長ハ左ノ如キ作戰方針ヲ畫定セシナラム

第一師團作戰方針

一 師團ハ成ルヘク永ク越前平地ニ位置シテ當面ノ敵ヲ拒止シ以テ軍主力ノ作戰ヲ容易ナラシム(A)

然レトモ左ノ場合ニ於テハ攻勢ヲ企圖ス

(イ) 敵兵我陣地ヲ攻撃シ其間乘スヘキ機會アル時(B)

(ロ) 敵兵他方面ニ轉進セムトスル時 (C)

二 師團ハ軍方面ノ情況如何ニヨリテハ一部又ハ主力ヲ以テ此方面ノ敵ニ對セシメ主力或ハ一部ヲ以テ軍主力方面ニ轉進スル場合アルヘキコトヲ豫期ス(D) 前述ノ方針ニ伴フ地形一般ノ觀察トシテハ次ノ如クナルヘシ

越前平地ニ於テ情況ニ應スル爲メ攻勢及持久ノ何レニモ適スル地ニ布陣シ在ルヲ要シ此目的ノ爲ニハ武生附近ヲ可トス此際勝山平地方面ニハ特ニ注意スルヲ要ス

前述ノ第一師團ノ作戰企圖ヲ學術的ニ分類スレハ左ノ如シ

(A) 戰略守勢

(B) 戰略的守勢(戰術的逆襲攻勢)
(C) 戰略的守勢(戰術的出擊攻勢) } 戰時的ニ當初兵力集結
(D) 任務變更

情況

二十四日午後我文珠山附近ノ後衛ハ敵ノ一部ノ攻撃ヲ受ケシモ之ヲ拒止シ夜ニ入り該陣地ニ一部ヲ殘置シ主力ハ武生附近本陣地ニ退却セリ

二十五日師團ハ歩騎兵ノ一部ヲ以テ八幡山ヨリ鯖江ヲ經テ三勝山ニ亘ル線並ニ其左右兩側ノ警戒監視ニ任セシメ步兵第三聯隊第一大隊(第三、第四中隊)及機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲兵第二中隊ノ一小隊ヲ以テ粟田部附近步兵第一聯隊第九中隊、騎兵一分隊ヲ以テ家久(武生北方約二吉)附近步兵第二聯隊第一

大隊及機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲兵第九中隊ヲ以テ愛宕山附近ノ前進陣地ヲ守備セシメ、武生南方地區ニ位置ス但主力ノ内ノ一部ハ尙工事ニ從事シツツアルモノアリ

敵ハ拂曉稍過其最前線ヲ以テ小坂田(八幡山)北方約三吉、吉谷(雨降神社)北方約三吉、岡野(鯖江)北方約三吉、上石田(岡野)西方約二吉、朝日(三勝山)北方約二吉ノ線ニ現出シ我警戒部隊ヲ驅逐セントシツツアルモノノ如ク又其主力ハ淺水東方地區ニアルモノノ如ク此頃彼我ノ飛行機ハ盛ニ天空ニ活動シツツアリ

午前十時ニ至ルモ前面ノ情況大ナル變化ナキモノノ如シ此頃軍司令部ヘ連絡ノ爲メ派遣セル參謀歸來シ軍司令官ノ意圖ヲ報告ス其要旨左ノ如シ

軍司令官意圖ノ要旨

- 一 第一師團前面ノ敵ハ我一師團半以上ニ相當スル兵力ヲ有スルカ如シ
- 第二師團前面ノ敵ハ約四師團ニ相當スルモノニテ今二十五日拂曉ニ至ルモ未タ第二師團ニ對シテ攻撃ヲ開始セス或ハ揖斐川上流ニ前進セル敵迂回部隊ノ効果ヲ待チツツアルニアラサルカヲ疑ハシム該迂回部隊ノ兵力ニ關シテハ未タ不明ナリ
- A 支隊前面ノ敵ハ約一師團ニシテ今二十五日拂曉ヨリ該支隊ニ對シ攻撃ヲ開始セリ
- 二 軍ハ愛知川河畔ノ陣地ニ依リテ敵ト決戰ヲナサントス會戰開始ハ二十八九日頃ト豫想セラル爲之A支隊ノ兵力ヲ增加シ近江、伊賀、伊勢三國々境山脈ヲ堅固ニ守備セシメ第二師團ヲシテ垂井附近ノ陣地ヲ撤シ逐次愛知川ニ退却セシム軍主力タル第三、第四、第五(A支隊)及軍直屬部隊ハ已ニ愛知川河畔ニ集結ヲ終レリ第二次輸送兵團ノ内第六師團ハ已ニ京都附近ニ集合ヲ終リ明

二十六日ヨリ運動開始愛知川河畔ニ進出セシム第七師團ハ今二十五日夜半ヨリ汽車行ヲ以テ逐次京都附近ニ到着スヘク該師團戦闘部隊全部ノ來著ハ二十九日夕ノ豫定ナリ

三 第一師團ハ北方面ノ敵ノ前進ヲ遲滞セシメ且東方面ノ敵ヲ可成多ク北方ニ牽制スルコトヲ努ムヘシ情況之ヲ要スレハ敵ヲ西方ニ誘致スヘシ此場合ニ於テモ大津—今津道ハ可成永ク之ヲ開放セサルヲ要ス

四 第一師團西方ニ退却スル場合ニ於ケル陸路兵站ニ關シ日笠(小濱東方約十吉)以西ハ軍ニ於テ設置スヘク同地以東ハ今庄、長濱間ノ諸機關ヲ以テ師團ニ於テ之カ設置ヲナスヘシ

長濱北方兵站ノ移動ニ關シテハ第一師團長ノ意見ヲ是認シ且琵琶湖水路ノ利用其他ニ關シテハ在長濱兵站監ニ指示シアリ

五 軍司令官ハ明二十六日京都出發野州ニ至ル

第二師團ヨリノ連絡將校報告左ノ如シ

揖斐川上流ニ行動シツ、アル敵ノ兵力ハ不明ナルモ稍有力ナルモノ、如ク第

二師團ハ各一部ヲ以テ中尾峠以南諸山頭ヲ守備セシメアリ該師團長ハ長濱以北ノ第一師團兵站ヲ速ニ移動セシムルト同時ニ第一師團ヨリ一部ヲ木之本方面ニ派遣シ第二師團ニ協力センコトヲ希望シツ、アリ

此頃ニ於テハ第二師團及軍司令部トノ電氣通信ハ回復セラレタリ

兵站監ノ報告ニ依レハ兵站線移動ノ豫定左ノ如シ

一、柳ヶ瀬、長濱間ノ兵站線ハ今二十五日中ニハ柳ヶ瀬—疋田—海津—今津道ニ變換シ終ル豫定ニシテ爾今一時今庄—柳ヶ瀬—疋田—今津道上ニヨリ師團ニ補給ス

二、今庄—柳ヶ瀬—疋田道上ノ兵站ヲ今庄—敦賀—疋田道上ニ移動セシムルニハ二十七日夕ニ終了スル見込ナリ

三、敦賀—疋田—今津道上ノ兵站ヲ敦賀—日笠—今津道上ニ移動シ終ルハ二十九日夕ノ豫定ナリ

四、爾後軍ニ於テ日笠以西ノ兵站設置完成迄ハ琵琶湖ノ水運ヲ利用シ今津ヲ基點トシ今津—疋田—敦賀—今庄道ニヨリ補給スル豫定ナリ

第十四問題

爾後ノ爲メ第一師團長ノ作戰考案

(注意) 答解上此種作戰ハ別ニ形式ナキモ一例ヲ示セハ次ノ如シ

第一師團爾後ノ作戰考案

師團ハ、、、、スル爲メ、、、、ス之カ爲メ左ノ要求ノ處置ヲナス

一、、、、 敵情ヲ豫想シ實行シ得ヘキ範圍ニ於テ稍長期ニ亘ル處置ヲ立

二、、、、 案ス

三、、、、

理由

、、、、、、、、

説明

軍司令官ノ意圖ヲ綜合スレハ第一師團今後ノ作戰方針ヲ得ヘシ而シテ本作戦方

針モ三月二十二日ニ於テ已ニ第一師團長ノ胸中ニ浮ヒ居リシモノナラン只軍方面ノ情況上未ダ正文トナシテ記録シ能ハサリシノミ今ヤ即軍司令官ヨリ其指針ヲ與ヘラレタリ之ヲ記述スレハ左ノ如シ

第一師團作戰方針

一、師團ハ北方面ノ敵ヲ拒止スルト同時ニ東方面ノ敵ヲ可成多ク西北方ニ牽制ス (a)

二、兩方面ノ敵ノ壓迫ヲ受クルニ至レハ可成長ク敦賀平地ヲ保持ス (b)

三、優勢ノ敵ニ壓迫セラレ敦賀平地ヲ保持シ得サルニ至レハ一部ヲ以テ直接湖

西地區ニ行動セシメ主力ハ敵ヲ西方ニ誘致ス (r)

(a) (b) (r) 共ニ戰略守勢ナルモ所謂牽制作戦ニシテ戰術上ニ於ケル攻勢及守勢並ニ

退却ハ一ニ情況ニ依ルモノナリ

總評

考案ノ種別ニ依リ分クレハ左ノ如シ

一、一部ヲ以テ北方面ノ敵ヲ拒止セシメ主力ヲ以テ東方面ノ敵ヲ牽制セントスル案

甲、即時主力ノ轉進ヲ企圖スル案

乙、若干時日ノ後之ヲ行ハントスル案

此ノ考案ハ已ニ牽制シ得タル一師團半ノ敵ヲ輕視シ豫期シ難キ廣大ナル結果ヲ豫望スルト地ノ利ヲ過信シ過キタルノ結果ナリトス

二、主力ヲ以テ北方面ノ敵ヲ拒止シ一部ヲ以テ東方面ノ敵ヲ牽制セントスル案

甲、即時一部ヲ轉進セシムル案

乙、若干時日遅レ轉進セシメントスル案

此ノ考案ハ當面ノ一師團半ノ敵ヲ重要視スルハ可ナルモ其ノ慎重ナル作戰考案ノ基礎自己師團ノ爲メヨリ打算セサルハ不可ナリ

三、一小部隊ヲ以テ背後ノ掩護ニ任セシメ殆ント全力ヲ以テ北方面ノ敵ニ對セントスル案

此ノ考案ハ師團自己ノ爲メニハ安全ナルモ軍司令官ノ要求ヲ充足セサルハ不可ナリ師團ハ敗戦ヲ賭シテモ軍司令官ノ要求ヲ充足スル精神ナカル可ラス

以上ノ如キ考案發生ノ動機(基礎)ハ恐ラク左ノ如キ點ニ基因スルナラン

一、師團ノ作戰方針ハ三月二十二日師團長ノ立案シタルモノヲ變更スル必要ナシトスルモノ

二、師團カ尙前面即北方面ノ敵ニ對シ決勝戰ヲナシ得ヘシト想像スルモノ

三、師團武生附近ノ戰鬪ハ二十五日中ニ終了スルナラント豫期スルモノ

四、北方面ノ敵ノ南下ヲ制スルニハ直接敵ノ進路ヲ遮斷スルヲ要スト考ヘ側方位置ノ戰略上ノ價值ヲ考ヘサルモノ

五、牽制及誘致ナル兵語ノ意義ヲ充分了解セサルモノ

六、考案ハ如何ナル事項ヲ何程度ニ考案スヘキヤニ注意薄キモノ

七、前文ノ記載ハ考案ノ主眼ヲ一目瞭然タラシムル爲メノ主旨ヲ誤リタルモノ

本問題ノ着眼點

- 一、彼我全般ノ形勢 赤軍ハ戰略包圍ノ姿勢ニアリ故ニ藍軍ハ此ノ姿勢ヲ打破スルニ努メサルヘカラス包圍作戰ノ戰例左ノ如シ
 - 1、日清戰爭 一八九四年九月十五日平壤攻撃ニ至ル迄ノ日本軍ノ行動
 - 2、日露戰爭 一九〇四年八月三十一日遼陽攻撃ニ至ル迄ノ日本軍ノ行動
 - 3、普埃戰爭 一八六六年ベネデツクニ對スル普軍ノ作戰
 - 4、普佛戰爭 八月末マクマホンニ對スル獨逸第三軍及「マース」軍ノ作戰
 - 5、露土戰爭 十二月「ブレヅナ」救援ノ爲メシユライマンノ作戰計畫
- 二、敵情判斷 主トシテ我師團ニ對スル兩方面ノ敵ノ行動
- 三、師團行動ノ基礎
 - (イ) 北方面ノ拒止
 - (ロ) 北方面ノ敵ノ南下阻止
 - (ハ) 東方面ニ於ケル敵ノ牽制

四、地形一般ノ觀察

- (ニ) 湖西地區ノ掩護
- (a) 三ノイノ見地ヨリ北方山地ノ利用
- (b) 三ノロノ見地ヨリ主トシテ主力位置ノ選定
- (c) 三ノハノ見地ヨリ速ニ一部ヲ北部湖東平地ニ派遣
- (d) a及cノ何レニ主力ヲ策動セシムハキヤノ研究
- (e) 三ノニノ見地ヨリニ基クモ(a)乃至(d)ノ事項ヲ翫味スルトキハ當夜配兵ヲ要セス

五、側方位置ノ戰略上ノ價值 敦賀平地ニ位置スレハ北陸道ヲ南進スルコトヲ得サルヘシ尙左ノ戰例ニ就テ側方位置ノ價值ヲ見ルヘシ

- 1、日清戰爭 一八九四年十月鴨綠江戰後ニ於ケル清軍ノ退却
- 2、日露戰爭 一九〇四年五月露軍ノ南山及金州ノ布陣
- 3、普埃戰爭 一八六六年「オルシユーフ」
- 4、普佛戰爭 一八七〇年「オルレア」戰後十月佛國「ロアール」軍

5、露土戰爭 一八七七年露軍ニ對スルオスマンバシヤノ「ブレブナ」占領
 六、兩方面兵力ノ分配 左ノ戰例ハ敵ニ擊退セラレ尙特別任務ヲ達シ得タルモノナリ
 1、一五六六年「ランゲンツァー」ニ於ケル「ハンノヴァー」軍

原 案

第一師團長ノ作戰考案

師團ハ有力ナル一部ヲ以テ北部湖東平地ニ派遣シテ東方面ノ敵ヲ牽制セシメ主力ヲ以テ北方面ノ敵ヲ拒止シツ、逐次敦賀平地ニ向ヒ退却ス之爲大要左ノ處置ヲナス

- 一、歩兵第一旅團第二聯隊、騎兵第一聯隊、野砲兵第一大隊、山砲兵第八中隊、工兵第二中隊、衛生隊半部、電話隊半部、步砲彈藥糧食各半縱列ヲ以テ湖東支隊ヲ編成シ二十四日午後二時武生附近出發北國街道ヲ北部湖東平地ニ向ヒ前進シ東方面ノ敵ヲ牽制セシム

二、イ) 師團主力ハ現在地ノ姿勢ニアリテ二十五日夜ヲ撤ス

- (ロ) 師團主力ハ二十六日拂曉歩兵第三聯隊、師團騎兵(二小隊)、野砲兵第一聯隊(第一、第三大隊)、山砲兵第三大隊、第八中隊、ヲシテ妙法寺附近第二線陣地ヲ守備シ敵ノ前進ヲ拒止セシム

- (ハ) 師團主力ノ爾餘歩兵第二聯隊、騎兵二分隊、工兵第一大隊(第二中隊)、衛生隊半部、電話隊半部(ハ)二十六日未明現在地附近ヲ撤シ今庄附近ニ向ヒ退却セシム
- 三、爾後師團ハ敵ノ壓迫ヲ受クレハ南北相策應シ逐次敦賀平地ニ向ヒ退却ス

理 由

一、東方面ノ敵ハ第二師團ニ對シ頗ル優勢ニシテ今ヤ其一部ハ此方面ヨリ迂回ヲ決行シツ、アルヲ以テ第二師團垂井附近ヨリノ撤退ハ近ク實行セラル、ナラシム果シテ然ラハ師團ハ急速ニ一部ヲ北部湖東平地ニ派遣シ以テ該方面ノ敵ヲ牽制シ軍ノ要求ヲ充足スルト同時ニ第二師團ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ要ス之カ爲メ使用スル兵力ハ多々益々可ナリト雖モ師團主力ヲ以テ該方面ニ南下

スルハ北方面ノ敵ヲシテ偶々以テ戰略包圍ノ成果ヲ擴大セシムルノ虞アリ故ニ此方面ニハ有力ナル一部ヲ以テ行動セシムルヲ適當トス

二、師團前面ノ敵ハ恐ラク全力ヲ擧ケテ我ヲ攻撃スルナラン之目下敵ノ保持スル有利ナル形勢ヲ更ニ良好ナラシムル最良手段ナレハナリ而シテ師團ハ湖東支隊ノ分遣ニ依リ兵力ヲ減シタルヲ以テ特ニ地形ヲ利用シテ敵ヲ拒止セサル可ラス而シテ武生南方ノ山地ハ劣勢ナル兵力ヲ以テ一時能ク優勢ナル敵ヲ拒止スルニ適ス故ニ師團ハ此山地ヲ利用シテ敵ヲ可成長ク拒止スルノ方法ヲ講スルヲ要ス

三、師團ハ敵ノ壓迫ヲ受クルモ尙北國街道湖西地區ニ對シ威力ヲ及ホシ得ル地ニ位置スルヲ要ス爲之敦賀平地ヲ可トス之縱令山地ノ掩護アリト雖モ敵ハ我ヲ顧慮スルコトナク北國街道ヲ南下シ又ハ湖西地區ニ進出シ得サルヲ以ナリ

第十五問題

第一師團逐次防禦ノ目的ヲ以テ武生南方隘路(含マス)敦賀(含マ

ス)間ノ地形一般ノ觀察

注意 1、地形ニ關スル設想ハ從前ノ例ニ準ス

2、答解ハ防禦線及部署ノ概要ヲ知ル程度ニテ可ナリ

總評

1、防禦線ヲ二線トスヘキヤ或ハ三線トスヘキヤハ師團長ノ戰鬪指導ノ方針ニ基キ決定スヘキモノニシテ本情況ニ於テハ敵ヲ誘致シ且湖東支隊ト協同スル爲三線ヲ可トス

2、防禦線ハ大要次ノ如ク決定スルヲ可トス

第一線 杣山、四瀨山、木ノヶ山、大良南方△四二三、九高地ニ亘ル線

第二線 椽木峠、木ノ芽峠、杉津南方高地ニ亘ル線

第三線 中ノ河内西南方山稜ヨリ越坂附近ニ亘ル線

3、各陣地ノ價值ヲ考察シ其兵力ヲ決定スルヲ必要トス各陣地ニ平等ニ配兵シ或ハ第一線陣地ノ守兵ヲ其儘第三線陣地ニ配兵セントスル如ク交互ニ使用スル

カ如キハ不可ナリ

4、各線ノ守兵ノ指揮系統ヲ明ニスルヲ必要トス

説明

一、地形判断ニ就テ

地形ヲ判断スル際ニハ左ノ諸項ニ就テ考察スルヲ必要トス

1、戦闘指導ノ方針ヲ確立シ併セテ其附近ノ地形ノ利用ヲ考察ス

(意見具申、下問應答ノ爲メ必要ナリ)

2、陣地内ノ地區地物ノ價值ヲ判断ス

(陣地構成ノ參考トナスモノナリ)

3、防禦線ノ概要ト部署ノ大要ヲ判定ス

(命令起案ノ參考トナルヘキ程度ナルヲ要ス)

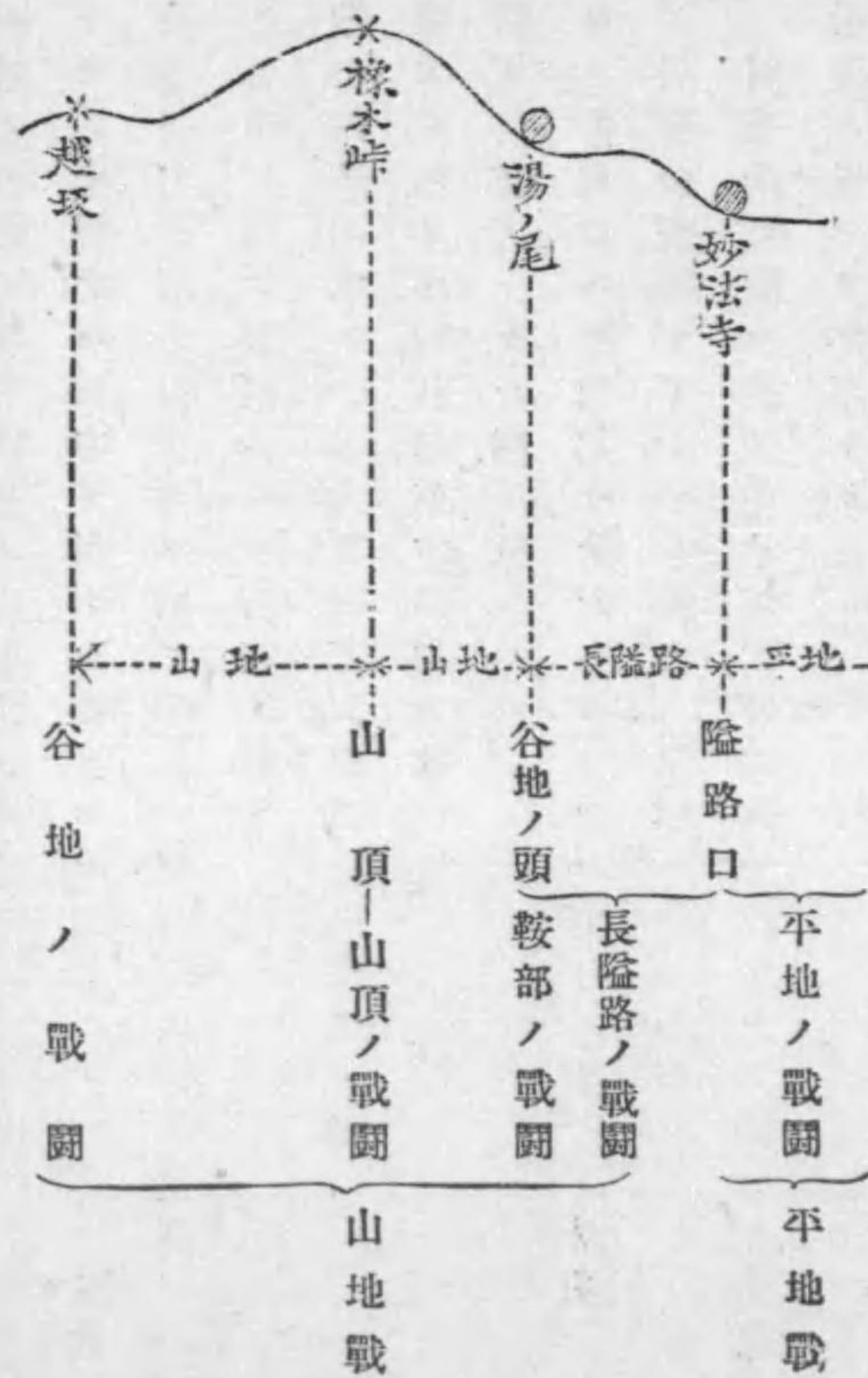
4、地形一般ノ價值判断

(作戰指導ノ爲メ必要ナリ)

二、本問題ノ著眼及原案

1、地形一般ノ考察

此附近ノ地形ハ大體ニ於テ左圖ノ如シ



2、逐次防禦ノ目的ヲ以テ以上ノ地形ノ利用法

敵ヲシテ其優勢ナル兵力ヲ使用シ能ハサル如クスルニアリ換言スレハ可成
的少數ノ兵力ヲ以テ優勢ナル敵ヲ拒止シ得ヘキ地形ヲ選擇スルニ在リ

3、以上ノ著眼ヲ以テ利用スヘキ防禦ノ數

甲、 杣山、四瀬山、木ノヶ山、大良南方△四二三、九高地ノ線

乙、 橡木峠、木ノ芽峠、杉津南方高地ノ線

丙、 越坂ヲ核心トセル線

4、各陣地ニ使用スヘキ(使用セサルヘカラサル)兵力ノ決定ノ方針

甲線、 所謂分裂陣ナリ大ナル兵力ヲ使用スルハ不利ナリ

乙線、 可及的堅固ニ占領スル爲比較的大ナル兵力ヲ使用シ且總豫備隊ヲ葉
原附近ニ置クヲ必要トス

丙線、 砲兵ノ全部ヲ使用シ歩兵ノ兵力ハ節約スルヲ可トス

5、各線ニ於ケル地區ノ價值ヲ判斷シ兵力ノ決定

甲線		乙線		丙線	
湯ノ尾附近	木ノヶ山附近	橡木峠附近	木ノ芽峠附近	中ノ河内西南側高地	越坂ヲ中心トセル陣地
野砲一大隊	山砲二中隊	山砲一大隊	野砲一大隊	山砲一中隊	野砲一大隊
計	計	計	計	計	計
歩四大隊半	砲四中隊	歩五大隊	砲兵ノ全部	歩四大隊	砲兵ノ全部
		葉原附近ニ豫備隊歩一大隊		其他ハ敦賀平地ニ集結	

6、附屬設備ノ考案

イ、鐵道線路ヲ敵ニ利用セラレサル如ク自己ハ之ヲ使用スル如ク計畫ス

情 況

- 一、湖東支隊ハ二十五日夕今庄附近ニ於テ大休止ヲ行ヒ本夜半出發木之本方向ニ前進スル旨ノ報告アリ
- 二、第二師團ハ各一部ヲ關ヶ原及春照附近ニ殘置シ主力ハ今二十五日夜暗ヲ利用シ彦根南方地區ニ向ヒ退却スル旨ノ通報アリ
- 三、師團主力前面ノ敵ハ二十五日夕薄暮ニ乘シ我監視部隊ヲ驅掛斐川河谷ヲ北進ノ敵ハ山砲十門ヲ有スル約三千ノ歩兵ニシテ一部ヲ以テ新穂峠主力ヲ以テ國見峠ヲ經テ北部湖東平地ニ進出セントシツツアルカ如シト
- 三、師團主力前面ノ敵ハ二十五日夕薄暮ニ乘シ我監視部隊ヲ驅

逐シ赤坂、鯖江、和田ノ線ニ進出セリ
横越(小和清水南方約六吉米足羽川谷地)ニハ歩兵約一千アル
ハ確實ニシテ砲兵ヲ有スルヤ否ヤハ不明ナリ我歩兵第三聯隊第十二中隊ハ籾田附近ヲ占領シアリ
大野附近ニハ約二百乃至三百ノ敵騎アリテ我師團騎兵ノ一小隊ハ之ト相對ス
織田(朝日西方約五吉米)谷地ニハ兵力未詳ナル敵ノ步騎兵アリ砲兵ヲ有スルヤ否ヤハ不明ニシテ我騎兵約一小隊此敵ト相對ス
梅浦(海岸道)方面ニハ敵騎兵斥候ヲ見ルノミ我將校斥候ハ此敵ト觸接ヲ保持シアリ

第十六問題

二十五日夕ニ於ケル第一師團長ノ決心

講評

第一案 現在ノ姿勢ヲ以テ夜ヲ徹シ明拂曉ヨリ配備ヲ變更シテ敵ヲ拒止セントスルモノ

第二案 今夜暗ヲ利用シ配備ヲ變更シテ敵ヲ拒止セントスルモノ

第一案ハ困難ナル夜間ノ行動ヲ避ケントスルト敵情ヲ稍樂觀視セルノ結果ナラシムル現下ノ情況ヨリ觀テ甚タ危険ナリトス故ニ予ハ第二案ニ同意ス左ニ予ノ意見ヲ述ヘン

本問題ノ著眼

本問題ノ著眼ハ彼我ノ情況上全般ノ戰局ヲ達觀シテ少事ニ捉ハルル事ナク絶エ

ス敵ニ對シ我ヨリ先手ヲ打チツツ以テ漸ク迫リツツアル作戰ノ危機ヲ離脱スルヲ努ムルニアリ之カ爲即チ豫定ノ計畫ニ基キ夜暗ヲ利用シテ配備ヲ變更スルニアリ

抑モ夜間敵前ニ於ケル軍隊ノ行動ヲ困難視シテ其可否ヲ論スルカ如キハ既ニ過去ノ事蹟ニ屬ス現ニ這般ノ歐洲戰爭ニ於テ東西戰場各種ノ方面ニ於テ熾ニ此種ノ行動ヲ遂行シツツアルニアラスヤ然モ此等ハ一概ニ其發達セル照明機關ノ齎セル結果ナリトノミ極論シ難キモノ多々アルヲ思ハサル可ラス茲ニ於テカ航空機ノ發達セル今日夜間ニ於ケル配備ノ變更ハ寧ろ最モ多ク採用スヘキ有利ノ手段ナラサル可カラス

原案

以下示ス情況ノ如シ

情況

二十五日夜第一師團長ハ今夜暗ヲ利用シ豫定計畫ニ基キ配備ヲ變更シ敵ヲ拒止スルニ決シ步兵第三聯隊長ノ指揮スル步兵第三聯隊、師團騎兵中隊(二小隊欠)野砲兵第一聯隊(第一、第三大隊欠)山砲兵第三大隊(第八中隊欠)ヲ以テ妙法寺支隊トナシ妙法寺附近ノ陣地ヲ守備セシム但飛行隊ハ師團長ノ直轄ナルモ要スレハ一時之カ指揮ヲナシ得セシム

第十七問題

二十六日ノ爲メ妙法寺支隊防禦配備計畫

講評

諸官ノ案ハ大體ニ於テ畑、妙法寺ノ高地線ヲ占領スルモノナルモ其細部ニ於テ分類スレハ次ノ三案トス

第一案 萱谷、勾當原ノ兩翼ハ全ク斥候ノミトナセルモノ

第二案 萱谷、勾當原ノ兩翼ヲモ一部ノ歩砲兵ヲ以テ守備スルモノ

第三案 第二案ノ如ク配備スルモ將來ノ退却ヲ顧慮シテ一本杉、王子、保村高地ニ更ニ陣地ヲ設備シ置クモノ

第一案ハ其正面ノ過廣トナルヲ避ケントセルモノナランモ彼我ノ兵力及地形利用ニ關シ深刻ナル觀察ヲ下ササリシ結果ニシテ斯クテハ現下ニ於ケル支隊防禦ノ根本方針ニ沿ハサルモノト認ム故ニ此際ハ正面過廣トナルモ他ノ二案ノ如ク是非共配備セサル可カラス但シ第二案ノミニテハ將來退却ノ爲メ腹案ヲ確定シ置クノ趣旨ニ缺クルモノトス故ニ予ハ第三案ニ同意ス

本問題ノ著眼

本問題ノ著眼ハ非常ニ優勢ナル敵ニ對シ地形ヲ利用シ廣正面ニ涉リテ一時的持久防禦ヲナス爲メ配備ト尙之ニ關連シテ地形上山砲ノ利用ヲ如何ニ顧慮スヘキヤ且退却ノ爲メ腹案ヲ定メ之ヲ如何ニ準備シ置クヤニアリ然シテ諸君ノ内ニハ

僅々歩兵三大隊ヲ基幹トスル部隊カ約二里ノ正面ニ分散シテ陣地ヲ占領スルハ一見奇異ニ感セラレルモノアラシク然レトモ本情況ノ如ク任務ハ全然一時的持久ニシテ殊ニ隘路口ノ嶮山ヲ利用シテ四倍以上ノ優勢ノ敵ヲ拒止セントスルニハ蓋シ自然トス但シ此際軍隊指揮上必要ナルハ各方面ノ部隊ニ豫メ退却ニ際シ探ル可キ目標及其他必要ナル處置ヲ概示シ置キ一方面突破セラレハ他方面ノモノモ要スレハ命令ヲ待ツコト無ク著々退却ヲ遂行シ得シムルニアリ抑モ軍隊情況上其兵力ニ比シ甚廣大ナル正面ヲ負擔シテ防禦スル事アルハ戰史ニ觀ルモ其蹟尠カラスシテ例ヘハ日露戰爭ニ於テ明治三十七年十月中旬我梅澤旅團ノ本溪湖附近ノ防禦ノ如キ或ハ現歐洲戰爭ニ於テ千九百十四年十月末東方戰場ニ於ケル獨軍カ波蘭侵入ヨリ退却シテ主力ヲトルン附近ニ集結シテ恢復作戰ヲ企圖セル際其防止正面タルシレジエン國境ヲ防禦セル軍隊ノ配備ノ如キ是レナリトス夫レ國軍カ將來劣勢軍ヲ以テ優勢軍ニ對シ飽ク迄攻勢ヲ探ラントスル作戰主義ニ想到スレハ必スヤ某方面ノ部隊ハ此種ノ廣大ナル正面ニ渉ル持久戰ヲ企圖セサル可ラサルノ場合多カル可キヲ覺悟セサル可カラス

原 案

一、軍隊區分及配置左ノ如シ

右側隊 歩兵第一中隊、傳騎二

一小隊ハ萱谷西方△三三七、九高地他ハ牧谷越ヲ占領

右翼隊

歩兵第二大隊及同第二、第三中隊、機關銃隊(一小隊欠)
奥西谷南方鞍部、小野谷東西ノ高地、畑、向新保、松森、常久ヲ占領シ別ニ小野谷南方△三〇九高地ニ更ニ陣地ヲ設備シ置ク

左翼隊

歩兵第三大隊(第十二中隊欠)機關銃一小隊
妙法寺及同西側高地、神山村ノ高地ヲ占領

左側隊

步兵第十二中隊及山砲兵一小隊傳騎二

勾當原東側高地山砲ハ勝蓮花方向ヲ射撃シ得ル如ク同高地ヲ占領

砲兵隊

野砲兵第一聯隊(第一、第三大隊欠)山砲兵第三大隊(第八中隊ト一小隊欠)

野砲兵大隊ハ四郎丸東側附近山砲兵一中隊ハ池ノ上東側高地同一小隊ハ日野山ヲ占領

總豫隊

步兵第一大隊(第一、第四中隊欠)師團騎兵中隊(一小隊欠)

此部隊ハ左ノ陣地ヲ設備シ爾後塚原南側ニ位置ス步兵陣地ハ一部ヲ以テ一本杉北端他ハ王子保村ノ高地ニ設備

野砲兵ノ陣地ハ國兼東側山砲兵ノ陣地ハ王子保村

高地ニ設備

二、支隊長ハ白崎ノ高地上ニ位置ス

三、敵ノ攻撃ノ重點ハ武生町西側地區ヨリ妙法寺ノ高地ニ向フ

モノト豫想ス

敵ノ砲兵陣地ハ村國山及岡本山附近ト豫想ス

四、各部隊ニハ豫メ退却ノ爲メ採ル可キ處置ヲ示シ置ク

情況

北方面ノ敵ハ二十六日拂曉後逐次我妙法寺附近陣地ニ近接シ正午頃ニ於テ概ネ次ノ情況ヲ呈ス

一、敵ノ第一線ハ村國山南方稜線ヨリ茶白山ヲ經テ廣瀨北方高

地ニ亘リ兵力約八大隊ヲ算ス其砲約三十門ハ愛宕山東側ニ約六門ハ村國山上ニアリ我^{8/3i}ハ未タ使用セラレルコトナクシテ行松南端附近ニ又^{4/3i}及DK中隊ハ塚原南方附近ニアリ其他第一線諸部隊ハ殆ト全力ヲ擧ケテ火戦ニ就ケリ

二、少クモ一大隊ヲ算スル敵歩兵ハ萱谷西側高地ヲ奪取シ續テ牧谷越及日野山ヲ攻撃セントシツツアリ砲約六門ヲ有スルカ如シ

三、約一大隊ノ敵歩兵ハ勝蓮花附近ノ我陣地ヲ攻撃中ナリ砲ヲ有セス

四、簗田附近ニアリシ我^{12/li}ハ砲約六門ヲ有スル約一大隊ノ敵歩兵ノ攻撃ヲ受ケ逐次退却シ目下東俣附近ニ停止シアルカ如シ

第十八問題

正午ニ於ケル妙法寺支隊長ノ決心

講評

本夜暗ヲ待テ退却セントスル案アルモ恐ラクハ夫迄ニ決戦ヲ強ヒラレ到底離脱スルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ予ハ大多數ノ案ノ如ク即刻ヨリ退却スルニ同意セントス

情況

妙法寺支隊長ハ退却ニ決シ所要ノ區處ヲナス

第十九問題

妙法寺支隊退却ノ爲ノ諸命令

但電氣的通信ハ所望ノ設備ヲナシアルモノトス

講評

支隊目下ノ情況ハ比較的少數ノ兵力ヲ以テ廣大ナル正面ニ亘リ陣地ヲ占領シアリテ各部隊相互間ノ交通連絡ハ決シテ容易ナラス而モ今ヤ敵ハ大規模ニ堂々攻撃ノ歩ヲ進メアルカ如シ而シテ支隊ノ退路ハ地形上限定セラレ概ネ三道ヲ算シ其間ノ連絡ハ急峻ナル山地ノ爲斷絶シアリ

諸官ノ案ハ各種各様何レモ相當ニ苦心研究セシ跡ヲ認ムヘキモ中ニ往々實際ニ適セサルモノアリ實行上不可能ト認ムヘキモノアリ又戰術上過失ニ近キモノアリ之ヲ例フレハ各隊ニ即刻ヨリ退却開始云々ト命シタルモノアリ傳達時間準備ニ要スル時間ヲ無視セルノ甚シキモノトイフヘシ又收容隊長ニ主要ナル第一線部隊長ヲ後退シテ任命セルモノアルモ如此ハ最繁劇ナル第一線部隊退却部署ヲ如何ニセントスルヤノ考ヲ缺クモノナリ其他支隊退却ノ爲ノ危點ヲ考慮セサル

モノ左右隸屬ノ關係ヲ無視シテ退却部署ヲナシタルモノ軍旗ニ對スル處置ヲ閑却セルモノ等少カラス

命令ノ構成ハ各別命令ノミノモノ合同命令ト各別命令トヲ併用セルモノノ二様アルモ目下ノ如ク遠隔セル地域ニ散在セル諸部隊ニ最迅速ナル傳達ヲ要スル場合ニアリテハ各別命令ノミニ依ルヲ可トセン

命令下達ノ要領ハ緊要ノ度傳達時間受令部隊ノ準備時間等ヲ顧慮シテ順序方法ヲ定メサルヘカラス諸官ノ案中緩急頗ル其要ヲ得サルモノアリ

又記述法ニ就テ一言セハ電話傳達ニハ發令時刻ヲ記入スルヲ要ス敵情ノ指示ハ之ヲ略スヘシ隣接部隊ノ行動ノ如キ密接ナル關係アル事項ヲ洩スヘカラス實ニ部隊ノ連繫動作ニ關スル責任ハ懸リテ指揮官ニアルコトヲ忘ルヘカラス其他地點ノ指示用語ノ不明瞭不明確ナルモノ少カラサルハ遺憾ナリ

之ヲ要スルニ諸官ハ自ラ身ヲ戰場ノ一角ニ置キ親シク實況ヲ眼前ニ描キツツ統帥ノ責任ヲ痛切ニ感スルノ覺悟ヲ以テ作業スルニアラサレハ價値少キモノナルコトヲ銘記スルヲ要ス次ニ本問題ノ著眼ヲ説明シツ、予ノ案ヲ述ヘントス

本問題ノ著眼

以下本問題ニ對スル著眼ヲ各項ニ就テ説述セントス

一、戰況切迫ノ程度并ニ危險方向

本情況ニ於テ戰況ハ未タ大ナル急迫ヲ示サス然レトモ大規模ニ攻撃中ナル敵カ支隊ノ退却ヲ察知セハ直ニ猛烈ニ殺到スヘキヲ顧慮セサルヘカラス而シテ支隊カ撤退直後ノ退路地形ノ關係上退却ノ爲最危險ナル方向ハ日野山ナルコト圖ヲ一見セハ明瞭ナル所ナリ若該地ニシテ敵手ニ落チンカ晝間ノ退却ハ殆不可能ナルヘシ

二、退却前ニ於ケル準備換言セハ配備一部變更ノ要否

戰況急迫セス且日野山方面ノ危險ナル情況ニ於テ配備一部ノ變更ハ必要ナルヘシ即チ豫備隊ニアル^{4/3i}(一)小隊欠^{4/3i}ヲ該地ニ増加スルヲ要ス

三、收容隊ノ編成并ニ收容陣地

支隊長手裡ニアル^{4/3i}ヲ日野山方向ニ使用セハ他ニ一兵ナシ故ニ第一線中使用

シ得ヘキモノヲ以テ收容隊ヲ編成セサルヘカラス即チ^{8/4/3i}ノ一小隊(軍旗護衛ノ爲殘置セシモノ)及妙法寺附近野山砲ノ若干ヲ使用シ其長ハ之ヲ山砲兵大隊長ヲ以テ充ツルヲ適當トス

收容陣地ハ地形上國兼附近ヨリ北方西北側高地ニ亘ル間ヲ適當トスヘシ

四、退却目標及地區ノ配當

湯ノ尾大谷ノ線迄一舉ニ退却スルヲ可トス中間ニ停止セントスル案アルモ本情況ニ於テハ適當ナラス何トナレハナルヘク速ニ敵ト離隔スルヲ刻下ノ急務トシ退却地區ハ地形上限定セラレアリテ而モ晝間ノ退却ナレハ中間ニ停滯スルハ不要且不利トスレハナリ

地區ハ妙法寺附近以東ノ部隊ヲ以テ湯ノ尾ニ春日神社附近ノ部隊ヲ以テ春日野隧道ヲ經テ菅谷ニ爾餘ヲ海岸ニ沿ヒ大谷ニ向フ如ク配當スルハ道路網ノ關係上自然ナルヘシ

五、退却ノ順序及開始ノ時期

支隊ノ退却ヲ察知セハ敵ハ猛烈ニ殺到スヘキヲ以テ同時退却ナラサルヘカラ

ス從テ線ノ出入アルモ之ヲ規正セハ却テ破綻ヲ生スヘシ故ニ其儘最迅速ニ後退スルヲ必要トス然レトモ一方準備ノ爲ニ要スル時間ヲ見積ラサルヘカラス即チ最遠隔ノ部隊ニ命令ヲ傳フル時間及^{4/3i}ノ所命ノ地點ニ到着スル時刻ヲ基準トセハ早クモ午後一時頃ナルヘシ

六、命令ノ構成及下達ノ要領

最迅速ニ且順序適當ニ諸隊ニ傳ハラサルヘカラス又其傳達法ニ於テ如何ナル手段區分ニ出ツヘキカヲ考慮スルヲ要ス即チ次ノ原案ニ就テ知ルヘシ

原案

- (一) ^{4/3i}長へ(支隊長口達、午後零時五分—十分) 其隊(一小隊欠)ハ即時出發、中平吹ヲ經テ日野山△七九四、七附近ニ急行シ第一中隊長某ノ指揮ヲ受クヘシ
- (二) ^{II/3i}長へ(支隊長電話、午後零時十分—十五分)

第八中隊ヲ即刻現在地出發北山西北側高地附近ニ至リ山砲兵第二大隊長ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

- (三) ^{I/3i}長へ(支隊長電話、午後零時十五分—二十分)

山砲一小隊ヲ即時出發、日野山頂附近ニ急行シ^{1/3i}長ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

- (四) ^{1/3i}隊長へ(支隊長電話、午後零時二十分—二十五分)

^{4/3i}(二) 小隊欠(山砲兵一小隊ヲ日野山ニ急行貴官ノ隸下ニ入ラシム)

- (五) 左翼隊へ(支隊長電話、午後零時二十五分—三十分)

支隊命令 三月二十六日午後零時二十五分
於塚原南方高地

一、支隊ハ妙法寺高地以東ノ部隊ヲ以テ湯ノ尾附近ニ其他ヲ以テ管谷及大谷附近ニ退却セントス

二、左翼隊ハ午後一時運動開始池上―具谷―河内道ニ浴フ地
區ヲ菅谷ニ向ヒ退却スヘシ

三、予ハ暫時北山西北側高地ニ後湯ノ尾ニ至ル

(六) 右翼隊ハ(支隊長電話、午後零時三十五分―四十分)

支隊命令 三月二十六日午後零時三十五分
於塚原南方高地

一、支隊ハ妙法寺高地以東ノ部隊ヲ以テ湯ノ尾附近ニ退却セ
ントス

歩兵二中隊、山砲兵一小隊ハ右側掩護隊トシテ牧谷越及日
野山附近ヲ步騎砲兵各約一中隊ハ收容隊トシテ北山北方
高地附近ヲ占領ス

二、右翼隊ハ午後一時運動ヲ開始シ日野川東側地區及關ヶ鼻
附近ヲ經テ湯ノ尾ニ向ヒ退却スヘシ

三、予ハ暫時北山西北側高地ニ後湯ノ尾ニ至ル

(七) 收容隊ハ(山砲兵第三大隊長、^{4/3i}ノ小隊長、DK中隊長ヲ集メ支隊
長口達

支隊命令 三月二十六日午後零時四十分
於塚原南方高地

一、支隊ハ午後一時第一線ヲ撤シ妙法寺高地以東ノ部隊ヲ以
テ湯ノ尾附近ニ向ヒ退却セントス

^{1.34/3i} BA 一小隊ハ牧谷越及日能山頂附近ヲ占領シ支隊ノ右側
ヲ掩護ス

二、山砲兵第三大隊長ノ指揮スル ^{34/3i} ^{8/3i} DK 中隊(半部欠)野砲兵一
中隊、山砲兵一中隊(一小隊欠)ハ收容隊トナリ北山西北方高
地附近ヲ占領シ支隊ノ退却ヲ收容スヘシ

三、予ハ後刻北山西北方高地ニ至ル

(八) 右側掩護隊へ(支隊長電話、午後零時四十五分—五十分)

支隊命令 三月二十六日午後零時四十五分
於探原南方高地

一、支隊ハ妙法寺高地以東ノ部隊ヲ以テ午後一時ヨリ湯ノ尾

ニ向ヒ退却セントス

^{14/3i}_{8/3i} DK 中隊(半部欠)砲兵一中隊半ハ收容隊トナリ北山西北
方高地附近ヲ占領シテ支隊ノ退却ヲ收容ス

二、歩兵第一中隊長ノ指揮スル部隊ハ右側掩護隊トナリ現在
地附近ヲ固守シ支隊ノ右側ヲ掩護スヘシ

三、予ハ北山西北方高地附近ニアリ

(九) 勾當原守備隊へ(副官ヲシテ筆記セシメ傳騎ヲ以テ送達ス)

支隊命令 三月二十六日午後零時十五分
於探原南方高地

一、支隊ハ主力ヲ以テ湯ノ尾附近ニ、各一部ヲ以テ菅谷及大谷

附近ニ向ヒ退却セントス

左翼隊ハ池ノ上—春日野—河内道ニ沿フ地區ヲ菅谷附近

ニ向ヒ退却ス

二、勾當原守備隊ハ午後一時運動開始勾當原—今泉—大良道

ニ沿フ地區ヲ大谷附近ニ向ヒ退却スヘシ

三、予ハ暫時北山西北方高地附近ニ後湯ノ尾ニ至ル

(十) 砲兵隊へ(副官ヲシテ口達セシム)

支隊命令 三月二十六日午後零時十五分
於探原南方高地

一、支隊ハ妙法寺高地以東ノ部隊ヲ以テ湯ノ尾附近ニ向ヒ退
却セントス

歩兵約二中隊、砲兵一小隊ハ右側掩護隊トナリ牧谷越及日
野山附近ニ、步騎兵各一中隊、砲兵一中隊半ハ收容隊トナリ

北山附近ニアリ

二、砲兵隊ハ午後一時運動開始、北陸道ヲ關ケ鼻附近ニ向ヒ退却スヘシ

三、予ハ暫時北山西北側高地ニ後湯ノ尾ニ至ル

但先電話ニテ次ノ命令ヲ口達スルモノトス(午後零時十分)

山砲兵第三大隊長ノ指揮スル野砲兵一中隊、山砲兵一中隊

(一小隊欠)ハ即刻現在地附近出發北山附近ニ來リ予ノ直轄

タラシムヘシ

大隊長ハ即刻予ノ許ニ先行セシムヘシ

(十) 中央隊へ(副官口達)

支隊命令

三月二十六日午後零時十五分
於礪原南方高地

一、支隊ハ主力ヲ以テ湯ノ尾附近ニ向ヒ退却セントス

歩兵二中隊、山砲兵一中隊ハ右側掩護隊トシテ日野山頂附近ニ、步騎約一中隊、砲兵一中隊半ハ收容隊トシテ北山西北方高地附近ヲ占領ス

二、中央隊ハ午後一時運動開始北陸道ニ沿フ地區ヲ湯ノ尾ニ向ヒ退却スヘシ

三、予ハ暫時北山西北側高地ニ後湯ノ尾ニ至ル

情 況

一、三月二十九日夕第一師團主力ハ豫定計畫ニ基キ越坂附近ノ陣地ヲ占領シ之ニ對スル敵ハ中ノ河内附近ヨリ獨立標高六三二及五一九高地附近、礪原附近、江良南方獨立標高二四三高地ニ亘ル線附近ニアリ

二、湖東支隊ハ混成約一旅團ノ敵ノ壓迫ヲ受ケテ逐次退却シ二十九日夕ニハ追分附近ヨリ麻生口ヲ經テ△五四三、〇高地附近ニ亘ル陣地ヲ占領シ敵ハ新道野、カラコ山、刀根東北方△五一五、七高地ニ亘ル線附近ニアリ

三、我騎兵第一聯隊ノ主力ハ七里半越以南海津ニ至ル間ノ山頸ヲ警戒シアリ而シテ該隊ノ報告ニヨレハ下余吳―川竝―野坂―岩熊―八田部―黒山―小荒路道及木之本―大音―飯ノ浦―鹽津濱道ハ野砲ヲ通スト

四、此ノ夕第一師團長ハ敦賀附近ニ在テ在今津歩兵第二旅團長ヨリ左ノ要旨ノ電報報告ヲ受領ス

小官ハ歩兵第四聯隊、同第二十五聯隊及野砲兵第三大隊ヲ指揮シ貴師團ニ増加スル目的ヲ以テ西近江路ヲ急行シ本

二十九日夕今津ニ到着シ宿營セリ

五、二十八日以來軍トノ電氣通信ハ故障ノ爲使用ニ堪ヘス又連絡ノ爲軍司令部ニ派遣セシ參謀ハ未タ歸來セス

第二十問題

二十九日夕ニ於ケル第一師團長ノ情況判斷(處置ヲ要セス)

講評

諸官ノ考案ハ左ノ二種ニ別タル

第一案 現陣地ニ止マリ増加隊ノ來著ヲ待テ攻勢ニ轉セントスルモノ

第二案 夜暗ヲ利用シテ敦賀西方地區ニ退却シテ陣地ヲ占領シ増加隊ヲ合シテ攻勢ニ轉セントスルモノ

第一案ハ師團カ爲シ得ル限リ北方ニ位置セントスルノ趣旨ニ於テハ同意スル所

ナルモ如何セン師團目下ノ姿勢ト作戰能力トニ鑑ミルトキハ成功ノ見込殆ントナカルヘシ即チ師團ハ歩兵九大隊ヲ基幹トセルモノヲ以テ今ヤ約十六吉米ノ廣正面ニ散布セラレアリテ全然機動力ヲ有セス交戦力トシテハ單ニ專守ニノミ堪ヘ得ヘキ情況ニアリ加之此ノ陣地ニ於テ適時増加隊ノ來着ヲ期待シ得ヘキヤ否ヤ頗ル疑ハシ之ニ反シ第二案ハ退却ニ伴フ所ノ不利アリト雖苟モ師團ニシテ敦賀附近ニ存在スル限リハ敵ハ易々トシテ北國街道ヲ南下スルコト能ハサルヘク且目下師團ハ夜暗ヲ利用シテ更ニ有利ナル地點ニ退却シテ姿勢ヲ變換シ尙確實ニ増加隊ヲ合シテ有利ニ作戰ヲ指導シ得ヘシ依テ予ハ第二案ニ同意ヲ表ス

本問題ノ著眼

一從來知り得タル軍主力ノ開戦時期並ニ増加隊派遣ニ基ク軍主力方面情況ノ考察
 二様ノ考察ヲナシ得ヘシ即チ一ハ決戦ノ時期極メテ切迫セルニハアラサルヤ他ノ一ハ決戦カ遷延セル結果第一師團ヲシテ持久セシムル爲ニハアラサルヤ

二師團前面ニ於ケル敵行動ノ判斷

敵ニシテ若シ特別ノ事情アラハ兎モ角否ラサルニ於テハ恐クハ全力ヲ以テ師團ニ對シ攻撃シ來ルヘシ是レ敵軍全般ノ形勢カ外線作戰ヲ企圖シ包圍的ニ我軍ニ向ヒ前進シツ、アルノ景況ト目下ニ於ケル師團方面ニ於ケル彼我ノ情況及地形一般ノ觀察トニヨリ明カニ判斷シ得レハナリ

三、師團目下ノ姿勢ト作戰能力(機動力及交戦力)

師團ハ目下歩兵九大隊ヲ基幹トセルモノヲ以テ約十六吉米ノ廣正面ニ散布セラレアリ從テ今ヤ全然機動力ヲ有セス交戦力トシテ單ニ專守防禦ヲナシ得ルノミ從テ爾後ノ作戰ヲ有利ニ指導スル爲ニハ姿勢ノ變換ト増加隊ノ使用法トニ深ク顧慮セサルヘカラス

四、増加隊ノ來著ト師團ノ姿勢變換

増加隊ノ來著ヲ期トシ須ラク姿勢ノ變換ヲ行フヘシ而シテ目下ノ情況之ヲ許ス

五、姿勢變換(時機、場所及行動)

宜シク夜暗ヲ利用シ敦賀平地ニ退却シテ爾後ノ方案ヲ策定スルヲ要ス而シテ敦賀西方高地附近ハ師團ノ此目的ノ爲比較的良好ノ状態ニアリ

原案

判決

師團ハ増加隊ノ來着ヲ待テ攻勢ニ轉スル目的ヲ以テ雨谷附近ヨリ榑林、木崎附近ヲ經テ榑川附近ニ亘ル線ニ防禦陣地ヲ占領スルヲ要ス

理由

一、師團前面ノ敵ハ恐クハ爾後我師團ニ對シ攻撃ヲ企圖スルナラン何トナレハ敵ハ假令優勢ナル兵力ヲ有スルモ師團ニシテ敦賀附近ニ存在スル以上ハ安ンシ

テ北國街道ヲ其策線路ニ使用シ得ヘカラサレハナリ

二、師團ハ歩兵九大隊ヲ主幹トスル兵力ヲ以テ約二師團ノ敵ニ對シ十六吉米ノ廣正面ニ亘リ配備セラレアリ故ニ專守的戰鬪力ハ之ヲ有スルモ攻勢力殊ニ機動力ニ至リテハ皆無ナリト謂ヒ得ヘシ從テ作戰能力ノ緊張ヲ望ムヤ切ナリ嘗テ軍司令官ヨリ通報セラレタル會戰開始時機及増加隊ノ派遣ハ更ニ一層其感ヲ深カラシム

三、敦賀平地ノ地形及増加隊到着ノ時日等ノ關係ハ師團ノ姿勢變換ヲ可能ナラシム何トナレハ師團ニシテ今夜暗ヲ利用シテ退却シ雨谷、榑林、木崎、榑川ノ線ニ陣地ヲ占領センカ敵ノ我陣地攻撃著手ハ明三十日午後若クハ三十一日拂曉トナルヘク我増加隊ハ遅クモ三十日夜半ニハ其全部ヲ集結シ得ヘシ果シテ然ラハ師團ハ戰鬪ノ初期又ハ開始前ニ確實ニ増加隊ヲ掌握シ得ル公算アリ且前述ノ線ハ師團防禦ノ爲比較的良好ナル景況ヲ呈スレハナリ

情況

- 一、第一師團長ハ二十九日夜暗ヲ利用シテ退却シ敦賀西方隘路口附近ニ於テ増加隊ノ來着ヲ待テ攻勢ニ轉スル目的ヲ以テ防禦陣地ヲ占領スルニ決セリ師團長ハ斯ル場合ヲ顧慮シ先ニ一參謀ヲ派遣シテ地形ヲ偵察シ概略ノ腹案ヲ作成セシメタリ(地形ノ設想ハ前例ニ依ル)
- 二、諸隊ハ二十九日夜半頃敦賀道ノ口ノ線ヲ通過シ逐次左ノ如ク退却ス
- (イ) 舊湖東支隊(騎兵第一聯隊ノ主力欠)ハ疋田―道ノ口―櫛林道ニ沿フ地區
- (ロ) 歩兵第二聯隊、歩兵第三聯隊第三大隊及野砲兵第一聯隊(第一、第三大隊欠)ハ越坂―檜曲―敦賀道ニ沿フ地區
- (ハ) 歩兵第三聯隊(第三大隊欠)及山砲兵第三大隊(第八中隊欠)ハ

海岸道ニ沿フ地區

- 三、師團長ハ不取敢諸隊ニ占領スヘキ概要ノ位置ヲ示シテ所望ノ地點ニ至ラシメ命令受領者ヲ關附近ニ集メ置キ午前二時諸隊ニ陣地占領ニ關スル命令ヲ與ヘタリ但シ諸隊ヲシテ各一部隊(主ナル道路ノ近傍ニ步兵約一中隊宛)ヲ殘置シテ前面ノ敵ト觸接ヲ保持シ且退却ヲ秘匿シ併セテ師團ノ陣地占領ヲ掩護セシム
- 四、増加隊ハ今早朝今津ヲ發シ左ノ如ク行動シツ、アリ
- 歩兵第二十五聯隊第三大隊(第九、第十中隊欠)同機關銃一小隊及野砲兵第九中隊ヲ以テ海津ヲ經テ小荒路ニ至リ騎兵第一聯隊長ノ隸下ニ入ラシメ其他ヲ以テ今津―日笠―敦賀道ヲ關附近ニ向ヒ急行中

第二十一問題

陣地占領ニ關スル第一師團命令

研究上飛行隊ニ示ス計畫、通信網回線圖、增加隊及騎兵聯隊長並ニ兵站ニ與フル命令等ハ之ヲ省略ス

本問題ノ著眼

- 一、師團防禦陣地選定ノ條件
 - 1、增加隊來著迄ノ陣地ノ保持
 - 2、增加隊到著後ノ交戰方針(火戰攻勢)
 - 3、兩姿勢轉換ノ容易確實堅固ノ度、餘地ノ保存、豫備的設備
- 二、防禦線ノ決定
- 三、敵主力ノ攻撃方向

四、地區ノ區分

五、防禦設備ノ概要

六、增加隊到著後ノ配備變更ノ腹案

七、補助設備(交通、通信等)

講評

- 一、本防禦ハ現在有スル兵力ノミヲ以テ行フ攻勢防禦トハ稍、其ノ趣キヲ異ニス即チ近ク增加隊ヲ得テ攻勢ニ轉スルニアルヲ以テ其來著迄ハ堅忍持久能ク敵ノ近接ヲ阻止セサルヘカラス故ニ過度ニ第一線ノ兵力ヲ節約シテ強大ナル總豫備隊ヲ控置スルカ如キハ情況ニ適セサルモノナリ
- 2、增加隊到著シテ攻勢ニ轉スルニ際シテハ既ニ優勢ナル敵ヨリ猛烈ナル攻撃ヲ受ケ戰鬪酣ナルヘキヲ思ハサルヘカラス而シテ地形ノ關係ヲ一覽セハ此際ニ於テ機動的攻勢移轉ハ先ツ困難ナルヘク結局第一線ニ增加部隊ヲ注入シ火力ヲ最高度ニ發揚シ正面ヨリ敵ニ向フノ已ムヲ得サルニ至ルナラン即

チ豫備ノ工事ヲ準備シ後方ヨリ是等陣地ニ至ル通路ノ設備餘地ノ保存等ヲ考ヘテ計畫スヘキナリ此ノ注意ヲ缺ケル者アリシハ遺憾トスル所ナリ

二、以上ノ著眼ニヨリ大體ニ於テ防禦線ハ直接山地ニ據ルコト無ク概ネ砂流、櫛林、櫛川ニ亘ル線ヲ可トスル點ニ於テハ異論無ク殆ト一致セルモノ、如シ此際ニ於テ問題トナルヘキハ右翼ヲ如何ニ決定スヘキカニ在リ抑々防者カ常ニ苦痛ヲ感スルハ敵ニ翼ヲ包圍セラレ又ハ迂回セラル、ニアリ而モ過廣ナル陣地ハ至ル所薄弱トナルヲ以テ或ル程度ニ斷念セサルヘカラス本情況ニ於テ多クノ者ハ野坂嶽ニ右翼ヲ止メタルモ一小部隊ヲ以テ南方山—新庄道ノ鞍部ヲ閉塞シ置クコト必要ナラン

三、敵ノ攻撃方向ハ大體ニ於テ二種ノ案ニ分タル即中央岡山方面ヨリ櫛林附近ニ向フモノ及陸軍演習地方面ヨリ公文名附近ニ向フモノ之ナリ然レトモ後者ハ著シク我陣地前ニ於テ側方ニ移動セサルヘカラサルト又我堅固ナル高地ニ衝突スルヲ以テ先ツ前者ヲ以テ穩當ナルモノト認ム以上ノ外尙ホ北方ノ地區ニ指向セシ者少數アルモ此ハ適當ナラサルヘシ蓋シ防者ノ出撃方面ト海及敦賀

ノ障礙トヲ思ハ、戰略戰術上ニ共ニ不利ナルヘケレハナリ

四、地區ノ區分ハ操典ニ其原則ヲ明示シアリ而テ敵ノ重點ヲ中央方面ト想定シナカラ砂流ト木崎トヲ別地區ニ分チシ者アルハ適當ナラス蓋シ砂流、櫛林、木崎ハ共ニ中央方面ノ支撐點ニシテ之レヲ別地區ニ分ツカ如キハ指揮ノ便否ニ考及ハサリシモノト謂フヘキナリ大體ノ地形上三地區トナスヲ適當トスルハ殆ト全員一致シアリ

五、豫備工事ノ必要ナルハ既ニ前述ノ如シ然レトモ其完成時ノ遲速ニ關シテハ自ラ其所要ニ差有リ即チ第一期及第二期ニ分チ計畫スルヲ可トス又第一期工事ノ完成時刻ハ之レヲ明確ニ示スヲ要ス而シテ其後尙ホ時間ノ餘裕アラハ更ニ堅固ナラシムヘシ豫備隊タルヘキ部隊ハ此ノ構築間前線ニ出シ共ニ作業セシムルヲ要ス無爲ニ休憩セシメアルカ如キハ不可ナリ

六、増加隊到著シ之レヲ第一線ニ増加スル時ハ自ラ配備ノ變更及新ニ指揮ノ區分ヲ規定スルヲ要スルニ至ラン豫メ此ノ腹案アルヲ要ス本情況ニ於テハ大部ハ中央地區ニ増加セラレ之レヲ更ニ二地區トナスヲ要スルニ至ルヘシ

七、工兵ハ徒ラニ第一線ノ工事ノ爲メ分散シテ使用スルカ如キハ通則ナラス本情況ニ於テ特ニ不適當ナリ陣地内部及後方トノ交通設備等ニ想到セハ自ラ判明スルナルヘシ

説明

火戦攻勢ニ就テ

火戦攻勢ニ方リテハ優勢ナル敵ヲシテ其全力ヲ以テ我設備工事ヲ攻撃セシメサルヘカラス之カ爲メニハ次ノ事項ヲ考慮スヘシ

- 一、敵全力ヲ以テ力攻スルヲ要スル正面幅ヲ占領スルコト
- 二、敵兵我翼ヲ包圍スルコト困難ナルヲ要ス
- 三、敵兵我陣地ヲ全力ヲ以テ力攻スルニ際シテ少數ノ兵力ヲ以テ優勢ナル敵ニ對シ火力ノ優勢ヲ占ムルヲ要ス而テ火力優勢ノ獲得程度ハ次ノ如クナルヲ要ス
- 1、敵兵損害大ニシテ攻撃頓挫スルコト

2、攻者ヲシテ假令駐止火戦ニヨルモ既ニ防者ノ反撃ヲ阻止シ得サルコト前述ノ目的達成ノ爲メニハ次ノ諸件ヲ必要トス

- 一、地形有利ニシテ十分ニ火力ヲ發揚シ得ルコト
- 二、陣地ノ設備ニヨリ兵力ノ寡少ヲ補フコト
- 三、攻者ニ比シテ縦長ヲ少クシ(密度小)尙ホ能ク火戦ヲ指揮シ得ルコト
- 四、攻勢ノ動機ヲ與フヘキ總豫備隊ヲ保存スルコト
- 五、各部ノ協同動作ヲ良好ニナシ得ルコト
- 六、豊富ナル彈藥ヲ準備スルコト
- 七、指揮官ノ統帥適當ナルコト即チ駐止火戦ト攻撃移轉トノ操縦適切ナルヲ要ス

原案

軍隊區分(別紙)

M支隊

長騎兵第一聯隊長大佐某

步兵第二十五聯隊第三大隊第九第十中隊欠及機關銃一小隊

騎兵第一聯隊

野砲兵第九中隊

航空隊

飛行機隊一隊

右翼隊

步兵第一聯隊第三大隊

機關銃一小隊

騎兵一分隊

中央隊

長步兵第一旅團長少將某
 步兵第一旅團(第一聯隊第三大隊及機關銃一小隊欠)
 騎兵二分隊
 左翼隊
 長步兵第三聯隊長大佐某
 步兵第三聯隊(第三大隊欠)
 騎兵一分隊
 砲兵隊
 野砲兵第一聯隊(第三大隊欠)
 山砲兵第三大隊
 總豫備隊
 步兵第三聯隊第三大隊

師團騎兵中隊(一小隊欠)
工兵第一大隊

第一師團命令 三月三十日午前二時
於關東端

一、敵ハ約二師團ニシテ昨三十日夕新道野、刀根池ノ河内、葉原、江良ノ線附近ニ在リタリ
我M支隊ハ海津北方地區ヨリ敵ノ左側背ヲ脅威ス
增加隊タル歩兵第二旅團(第三聯隊欠)歩兵第二十五聯隊第三大隊本部及第十一第十二中隊並機關銃一小隊欠(野砲兵第三大隊(第九中隊欠)ハ今三十日早朝今津出發日笠ヲ經テ關附近ニ急行ス

二、師團ハ增加隊ノ來著ヲ待チ攻勢ニ轉スル目的ヲ以テ野坂嶽

標高九一三五附近ヨリ山西側高地、砂流東端、櫛林東端、木崎東端、櫛川東端ヲ經テ櫛川北側高地ニ亘ル線ニ陣地ヲ占領セン
トス

軍隊區分別紙ノ如シ

三、航空隊ハ別紙計畫ニ基キ今拂曉ヨリ越坂及疋田方面ノ敵情搜索並ニM支隊及軍トノ連絡ヲナスヘシ

四、右翼隊ハ各一部ヲ以テ山西南約三千五百米山—新庄道ノ鞍部附近、野坂嶽山頂附近主力ヲ以テ陸軍演習地方向ニ對シ山西方約五百米高地附近ヨリ砂流南端附近ニ亘ル間ヲ占領スヘシ

五、中央隊ハ道ノ口及吉河方面ニ對シ砂流南端ヨリ櫛林東端附近ヲ經テ木崎北端ニ亘ル間ヲ占領スヘシ

特ニ一部ヲ以テ公文名東端附近ヲ占領セシムヘシ

六、左翼隊ハ鑄物師方向ニ對シ木崎北端附近ヨリ櫛川東端附近

ヲ經テ櫛川北方高地ニ亘ル間ヲ占領スヘシ

七、右翼中央、左翼隊地區ノ境界左ノ如シ

右翼隊

砂流西南側高地南端、公文名南端、小河内北端ヲ連ヌル線

中央隊

中央隊

木崎北端、中南端ヲ連ヌル線

左翼隊

各隊ハ各一部隊ヲ追分西方約二千米三角標高七六五・二以北
岩籠官林ノ高地稜線ヨリ堂岡山、長澤ヲ經テ笹ノ川河口ニ亘
ル線ニ出シ殘置部隊ノ收容、及陣地占領掩護並ニ陣地ノ秘匿
ニ任セシムヘシ

八、砲兵隊ハ一部ヲ以テ陸軍演習地東方高地及野神附近ヲ射擊

シ得ル如ク長谷南方高地附近他ノ一部ヲ以テ公文名附近ヲ

射擊シ得ル如ク櫛川北側高地附近ニ主力ヲ以テ岡山方向ヲ

射擊シ得ル如ク野坂及木崎西側高地附近ニ陣地ヲ占領スヘ

シ

九、總豫備隊ハ左ノ如ク行動シ後關西側附近ニ位置スヘシ

步兵ハ中央隊ノ陣地設備ヲ援助ス

師團騎兵中隊ノ主力ハ刀根、中ノ河内、葉原方向ノ敵情搜索

ヲ繼續ス

工兵大隊ハ後方交通路ノ設備ヲナス

十、防禦設備ハ別紙要圖ニ基キ之ヲ實施スヘシ

第一線ニ於ケル第一期工事ハ午前六時迄ニ完成スヘシ

- 十一、電話隊ハ別紙回線圖ニ基キ通信ヲ設備スヘシ
- 十二、衛生隊ハ各半部ヲ以テ射撃場北方約五百米無名祠附近及
杳見北方約千米ノ無名部落ニ開設スヘシ
- 十三、第二野戰病院ハ佐田ニ開設スヘシ
- 十四、步砲彈藥各半縦列ハ關西端附近ニ於テ彈藥補給ノ準備ヲ
ナシアルヘシ
- 十五、大行李騎兵聯隊大行李ヲ含ムハ山上ヲ先頭トシテ停止ス
ヘシ
- 十六、輜重ハ氣山ヲ先頭トシテ停止スヘシ
- 十七、予ハ關北側高地ニ在リ

傳達法

命令受領者ヲ集メ口授ス
命令受領者ノ來ラサルモノニハ筆記命令ヲ傳騎ヲ以テ送附ス

情況

- 三月二十八日藍軍司令官ノ知り得タル情報左ノ如シ
- 一、第五師團(步兵第一聯隊欠)ハ三國々境ノ山系ヲ守備シ伊勢方
面ヨリ來レル約一師團ノ敵ヲ拒止シアリ
- 二、第一師團(一部欠)ハ北陸方面ヨリ來レル約一師團半ノ敵及關
ヶ原方面ヨリ來レル約半師團ノ敵ニ對シ敦賀北方、東方及東
南方ノ諸山系ヲ守備シテ相對シアルコトヲ豫期ス
- 步兵第二旅團(第三聯隊欠)步兵第二十五聯隊、野砲兵第一聯隊
第三大隊ハ湖西地區ヲ急行シ第一師團ニ増加ス是等ノ部隊
ハ三十日頃敦賀附近ニ到著スルナルヘシ
- 三、軍主力前面ノ敵ハ本日其一線ヲ以テ刀根南方、犬上川ノ線附

近ニ進出セル模様ナリ

三一三

四、第七師團ノ中歩兵第二十五聯隊ハ敦賀方面ニ増加シ歩兵第二十六聯隊、山砲兵第一大隊ハ野州附近ニ其他ハ京都附近ニ集合中ナリ

二十八日午後六時軍司令官ハ更ニ左ノ情報ヲ得タリ

約二師團ノ敵ハ濱松方向ヨリ前進シ本日正午其先頭ヲ以テ名古屋附近ニ達セリト

(各時機ニ於ケル司令官ノ決心ハ各自ノ研究ニ讓ル)

説明

一、武生以南ニ於ケル第一師團ノ行動ハ敵ノ戰略包圍ノ效果ヲ減少セシムル爲メ採リシ背心的退却作戰ノ一部ナリ抑々退却ニハ集中的退却ト背心的退却トノ二種アリ

集中的退却ハ分離シアル兵團ヲ集結シテ戰略包圍ヲ企圖スル敵ニ對シ内線作戰ヲ實施シ各個擊破ヲ爲シ得ル機會ヲ捕フルニ便ナリ又背心退却ハ自己ノ兵力ヲ分離スルモ敵ヲモ分離セシメ其主力ノ集結又ハ戰略包圍ノ效果ヲ少カラシムルニ適ス而シテ此退却ニハ離心的ニ各方面ニ根據地ヲ有スルコト緊要ナリ

二、本想定ハ天正十二、三年頃ノ諸大名ノ形勢ニ鑑ミ現時ノ戰術ヲ之ニ加味シタルモノナリ而シテ其研究事項トシテ規畫セシモノ概ネ左ノ如シ

- 1、戰略突破ヲ企圖スル軍ニ策應スル支作戰ノ攻勢作戰
 - 2、軍主力ノ後退ニ伴フ支作戰兵團ノ準備姿勢
 - 3、敵ノ戰略包圍ニ對スル軍ノ會戰準備ニ伴フ支作戰兵團ノ背心的退却
 - 4、軍主力ノ攻勢移轉ニ伴フ支作戰兵團ノ攻勢
 - 5、尙ホ主ナル著眼事項次ノ如シ
- イ、統一的戰闘ヲナス遭遇戰指導ノ戰場ニ近接接準備ヨリ戰闘實行
- ロ、夜暗利用ノ退却之ニ基ク幕僚偵察

ハ、逐次防禦ノ地形判斷

ニ、晝間退却

ホ、火線構成ノ決戰防禦

指導ノ著眼事項

1、凡テ作戰ニハ準備ヲ要ス

2、統一ナル意義ハ形態ニ非ス任務ニ基クモノナルコト

3、統帥ノ責任

4、幕僚勤務ノ一部

5、作業上ノ主眼點ヲ捕ヘシムルコト(學生ヲシテ)

三、戰例

集中的退却 三十七年八月下旬遼陽會戰ニ至ル迄ノ露軍ノ退却

背心的退却 二十七年十月鴨綠江ノ戰鬪後ニ於ケル清軍ノ退却

茲ニ本想定ニ基ク研究ヲ止ム

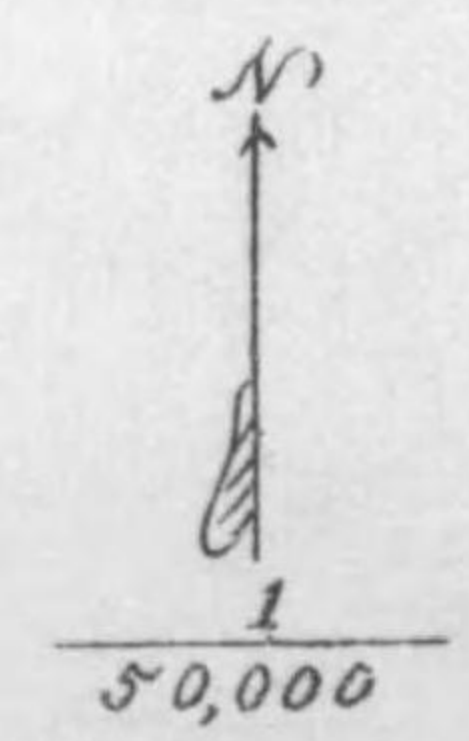
應用戰術講授錄卷之上終

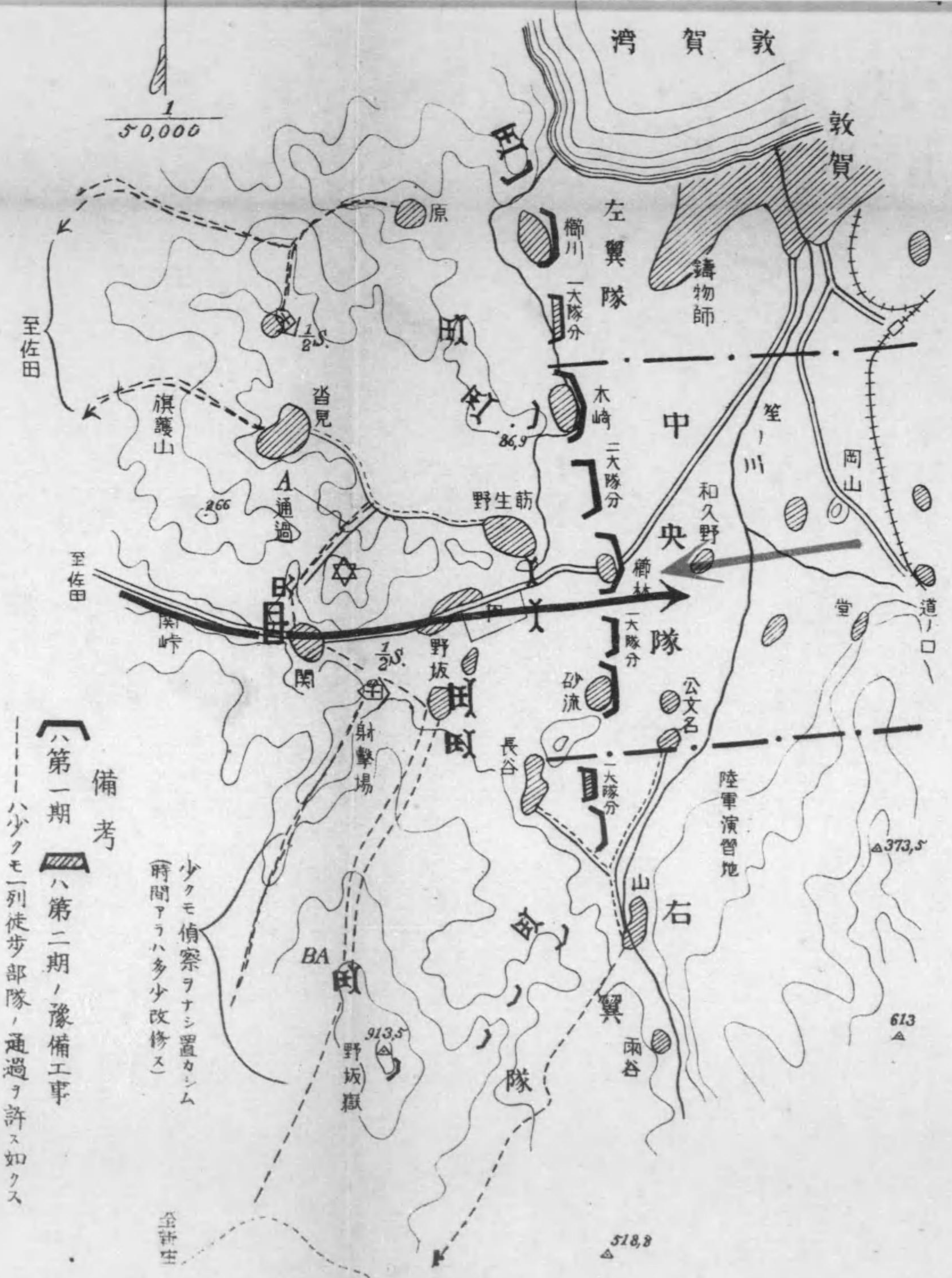




圖要領占地陣團師一第ルケ於ニ地平賀敦
 ルケ於ニ朝日十三月三

第六圖





備考
 第一期 第二期ノ豫備工事
 少クモ偵察ヲナシ置カシム
 時間アラハ多少改修ス
 至佐田

ハ、逐次防禦ノ地形判斷
 ニ、畫問退却
 ホ、火線構成ノ決戰防禦

指導ノ著眼事項

1. 凡テ作戰ニハ準備ヲ要ス
2. 統一ナル意義ハ形態ニ非ス任務ニ基クモノナルコト
3. 統帥ノ責任
4. 幕僚勤務ノ一部
5. 作業上ノ主眼點ヲ捕ヘシムルコト(學生ヲシテ)

三、戰例

集中の退却 三十七年八月下旬遼陽會戰ニ至ル迄ノ露軍ノ退却
 背心的退却 二十七年十月鴨綠江ノ戰鬪後ニ於ケル清軍ノ退却
 茲ニ本想定ニ基ク研究ヲ止ム

應用戰術講授錄卷之上終



大正六年五月十五日印刷
大正六年五月十八日發行

應用戰術講授錄卷之上奧付



著者	井上繁
發行者	上原好雄 東京市麴町區下二番町六十八番
印刷者	山田三太郎 東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所	山田活版所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地

發行所

東京市麴町區下二番町六十八番地
振替口座東京二四二五五番

外交時報社兵書出版部

電話番町五〇二九番

陸軍主計總監 隈 德 三閣下序文
 陸軍主計監 田中 政 明閣下序文
 陸軍二等主計正 谷 林 德 郎殿校訂
 陸軍二等主計正 小 西 林 剛殿校訂
 陸軍三等主計正 大 西 林 默殿編著

〔最新刊〕

軍隊經理

全四卷
 總紙數菊版一千餘頁
 定價金三圓八十錢

本書ハ著者カ其劇務ノ寸暇ヲ積ミテ完成セラレタル經理界ノ空前ノ大著ニシテ日進月歩ハ我軍事百般ノ改善ニ伴ヒ經理ノ最モ重要ナルハ言ヲ須ヒスシテ瞭然タリ而モ歐洲大戰ノ影響ハ一層ノ革新ヲ促スヘキノ秋ニ方リ本書カ我軍隊經理界ハ勿論各兵科學生諸士ニ與フル利益ノ蓋シ浩大ナルヘキハ當局ノ上長カ本書ニ序セラレタル所ニ由リテ知ルヲ得ヘシ
 大方ノ各位速ニ本書ヲ一讀シテ著者カ甚大ノ勞苦ト精力ノ賜モノヲ享受セラレシコトヲ冀フ

發行所 東京麴町下二番町六八
特約取扱所 東京日本橋通三丁目
外交時報社兵書出版部
武揚堂書店

319
383

7

終